

第5次多良間村総合計画 基本構想

～ 持続可能で 幸せあふれる ふしやぬふ文化の島 たらま ～

令和3年11月

 沖縄県多良間村



— 目 次 —

I 章	計画の策定にあたって	
1	計画策定にあたって	1
2	背景と意義	1
3	基本的方向	2
4	第2次多良間村人口ビジョン・総合戦略との整合性	3
5	基本構想・基本計画の期間	5
II 章	多良間村の概況	
1	多良間村の姿	6
2	沿革	7
3	多良間村の地勢・気候・人口等	
(1)	地勢・気候	8
(2)	人口・世帯数	8
(3)	産業区分別就業者数・生産額	9
(4)	村民所得の状況	10
4	アンケートから見た多良間村の姿	
(1)	第2次多良間村人口ビジョン・総合戦略のアンケートから見た姿	
①	農業・産業振興について	11
②	子育て・教育について	12
③	社会基盤の整備について	13
④	多良間村の魅力と課題について	13
⑤	多良間村の課題（いやなところ）について	14
⑥	多良間村に住み続ける意向について	15
(2)	本計画策定に関するアンケートから見た住民の意識・姿	
①	商業振興について	15
②	基盤整備について	16
③	持続可能な生活・環境づくりについて	17
④	健康・福祉事業等について	18
⑤	教育・人材育成・地域づくりについて	19
⑥	村民の幸福度意識について	20
⑦	小・中学生へのアンケート結果（抜粋）	23

Ⅲ章	県内外の潮流	
1	21世紀社会の潮流	25
2	沖縄県の21世紀ビジョン（概要）	27
3	SDGsの推進	28
Ⅳ章	基本構想	
1	多良間村の目指す姿	31
2	基本構想の基本的方向性	32
3	将来像を支える6つの基本目標	
	(1) 基本目標1 豊かな生活の基礎となる産業づくり	33
	(2) 基本目標2 島を支える生活の基盤づくり	34
	(3) 基本目標3 人・地球にやさしい持続可能な環境づくり	35
	(4) 基本目標4 明るく安らぎに満ちた暮らしづくり	36
	(5) 基本目標5 島の未来を支える人づくり	37
	(6) 基本目標6 健全な村経営の仕組みづくり	38
◆	基本構想体系図	39

1章 計画の策定にあたって

1 計画策定にあたって

平成28年作成の「第4次多良間村総合計画 後期基本計画」の策定以降、本村を取り巻く情勢は、少子高齢化、人口減少化、過疎化問題等に端を発する各種問題等、行政を取り巻く環境が大きく変化している。同時に時代の潮流を把握していくとともに、住民の生活も多様化され様々な課題が山積され適切な対応が要される。また近年、世界では新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が猛威を振るい、人々に不安と恐怖を招いている。国内でも2020年1月に初めて発見され、いまだ終息が見えない状況にある。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により経済社会全体に及ぼす停滞は大きく、多良間村においても例外なく住民の日常生活にも支障をきたし、活動を自粛することとなり多くの困難を強いられている状況である。このような未曾有の新型感染症、または自然災害に対する対策も近年の大きな課題となっている。このことから鑑み、多良間村が直面した課題に加え、時代に沿った地域共存型の計画として、医療・保健・福祉の充実、農林水産業の振興、過疎化対策、医療・保健・福祉の充実、観光産業等、村民の生活に密着した施策を講じていく。多良間村として厳しい行財政状況を勘案し、限りある資源、人材を最大限に生かした村づくりを掲げ“村民が主人公”となり、いきいきと活力ある村、将来に向けて持続可能な村として発展していく事を目標に「第5次多良間村総合計画」を策定する。

2 背景と意義

わたしたちの村多良間村は、宮古島と石垣島の間位置し、自然の恩恵にあふれる緑輝く太陽の島である。琉球風水で作られたフクギ並木や島を取り巻く「多良間ブルー」と称される美しい海、人びとの営みが織り成してきた歴史・伝統文化・芸能の伝承等、緑に恵まれた自然と村とが調和した環境のなかで、さまざまな人が暮らし、子どもたちの未来を育み、働き、情けに厚い癒しの島として、活力に満ち、村民誰もが笑顔にあふれ、夢と希望に満ち、幸福感にあふれ、人をつなぎ、地域をつなぎ、未来（明日）へつなぐ村づくり「多良間村」として行財政運営を継続し豊かでたくましい持続可能なむらを目指していく。

3 基本的方向

総合計画は、行政運営の基本となる地方自治体の最上位計画である。そして長期的な地域経営の確立にむけ、村民や各種団体・事業者に対し多良間村の村づくりの方向性と必要な施策を示し、村づくりに主体的に参画・協働するための指針となる。国、県、近隣市町村とも連携を図り円滑な行政運営を推進していく。

前計画（第4次多良間村総合計画・後期基本計画）は、基本ビジョンとして「南の島に浮かぶ沖縄の心のふるさと・ゆがふう島多良間」の将来像のもと、「美しく絵になる島づくり」、「生き生きとした地域づくり」、「島に根ざした人づくり」の3つの基本方針を掲げ実現に向け取り組んできた。第5次多良間村総合計画・前期基本計画は、第4次の基本理念は継承しつつ、県内外の社会課題となっている安定的な経済発展、持続可能な開発・発展、少子高齢社会への対応、ジェンダー等多様な人権の確認向上等を基本的姿勢とし、村民の幸福感の醸成・向上を第一義的に捉えて策定していく。

また、村民が生まれ育った島で安心して子育て、教育ができる環境づくりや、雇用人材問題、地場産業の活性化、離島が抱える諸問題等を多面的な支援を得て推進する。

多良間村においては、村の将来像や行政のあり方の根幹をなす計画として、これまで10年ごとに基本構想を策定し、5年ごとの基本計画（前期及び後期）を策定してきており、今期も村の上位計画として行財政運営の指針となる総合計画を引き続き策定する。

今期の第5次多良間村総合計画基本構想・前期基本計画では、令和2年度に策定された「第2次多良間村人口ビジョン・総合戦略」を踏まえ、沖縄県が示した「沖縄21世紀ビジョン」との整合性を計りながら、国際的な目標である「持続可能な開発目標：SDGs（Sustainable Development Goals）アジェンダ2030」に即した構想を策定するものである。

4 第2次多良間村人口ビジョン・総合戦略との整合性

地方の人口ビジョン・総合戦略は、各地方公共団体における人口の現状を分析し、人口に関する地域住民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものである。

多良間村では、令和2年度に少子高齢化の進展や転出者の増加を食い止め、将来にわたって活力ある地域社会を維持するため、まち・ひと・しごと創生法に基づき、「第2次多良間村人口ビジョン・総合戦略」を策定した。

そのなかで、国が定める総合戦略や多良間村のまちづくりの方向（①仕事づくり、②人の流れ、③子育て、④まちづくり）を踏まえ、村の総合戦略の基本目標と施策の基本的方向を次のように策定している。

【国の総合戦略が定める政策分野】

①地方における安定した雇用を創出する

- 若い世代のために今後中核となると考えられる産業の振興に注力して、質の高い雇用の場を確保し、ワークライフバランスや仕事と家庭の両立しやすい環境を整える。
- 地元企業等と連携し、若い世代の地元就職率を高めることで、地元で暮らしやすいという希望を実現する施策を推進する。

②地方への新しい人の流れをつくる

- 仕事や住まい、子どもの教育などの総合的な情報提供や支援を通じて、U I Jターンを進める。

③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- 地域の子育て支援の仕組みを充実させることで、若い世代が希望する結婚や出産を支える施策を推進する。

④時代に合った地域づくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

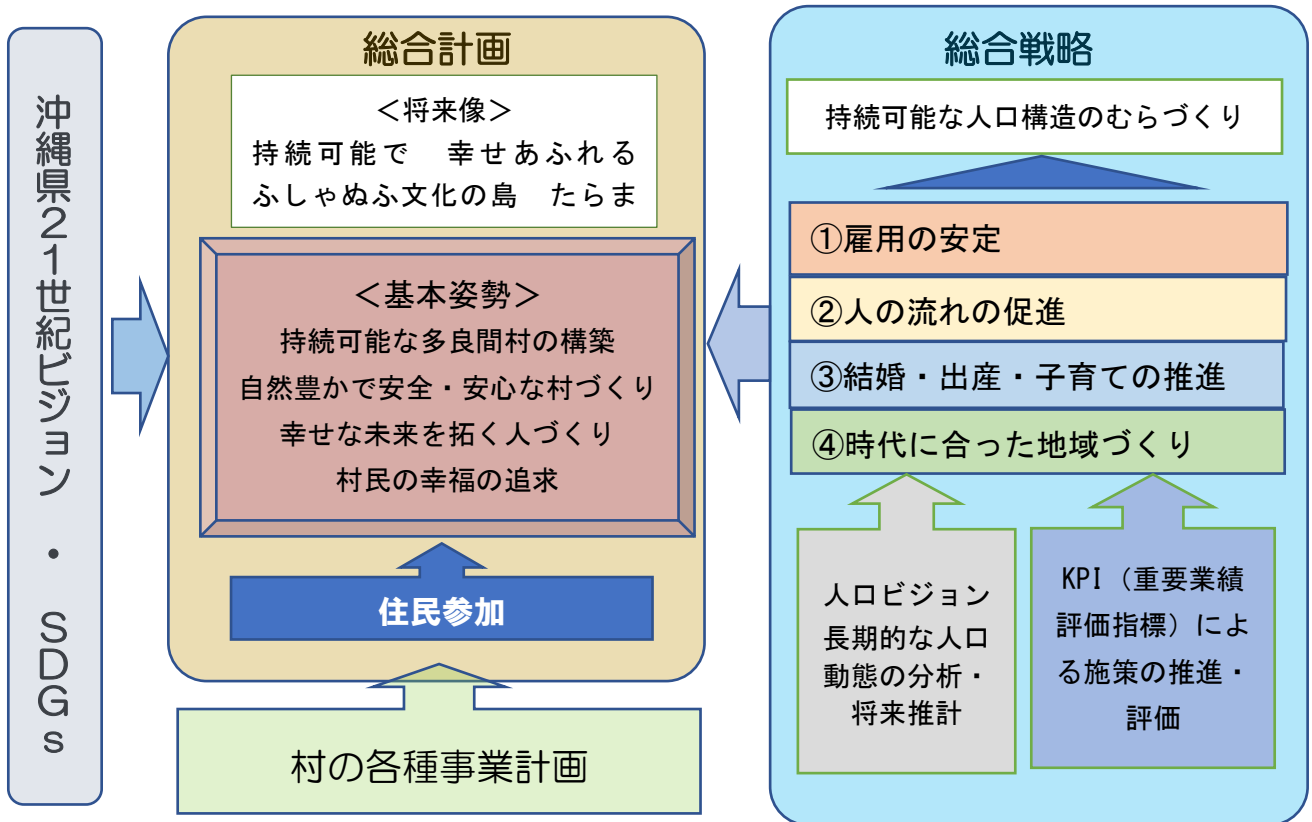
- 時代にあった地域づくりを進め、集落における小さな拠点の整備等により、住み慣れた地域で暮らし続けるための施策を推進する。

総合戦略は、「まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）」に基づき策定されるもので、本村の将来的な人口問題に向けた対策を重点的に取り続けるため、地方版総合戦略として策定されている。

なお、総合戦略は、国への報告義務があるが、総合計画を上位計画と位置づけ、総合計画を補完するものである。

【総合計画と総合戦略の関係図と総合計画の位置づけ】

総合戦略は、「まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）」に基づき 策定されるもので、本村の将来的な人口問題に向けた対策を重点的に取り続けるため、地方版総合戦略として策定されたものである。



村民が、生まれ育った島で安心して子育て、教育ができる環境づくりや、地場産業の活性化に向けた支援、就労機会の確保・住居問題等、その他離島が抱える諸問題等に取組むものとする。

5 基本構想・基本計画の期間

基本構想：村民と行政の村づくりの基本的な指針

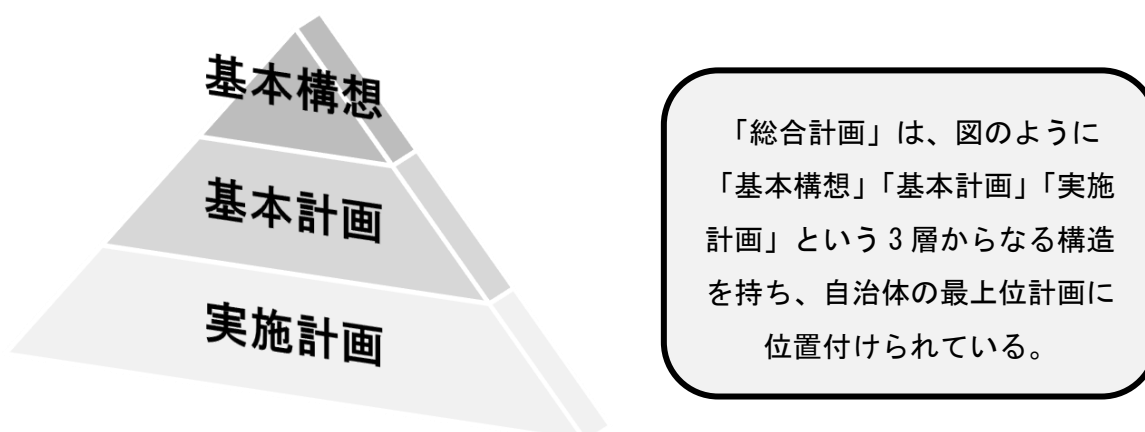
基本理念、自治体が目指す将来像、将来目標、施策の大綱などを記載した自治体運営の中・長期的なビジョン等を明らかにしたものである。期間を10年とする。

基本計画：具体的な施策の内容

基本構想に定めた目標や将来像を実現するために必要な手段や施策を明らかにしたものである。事務事業の根拠となる施策群。概ね5年で見直し、前期基本計画・後期基本計画とする。

実施計画：社会経済情勢の変化に柔軟に対応しながら実施する

基本計画に記載された施策に対応した具体的な事務事業等を明らかにするものである。実施時期や予算等も明確化しなければならないので、担当業務ごとに策定する。



計画の期間

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
(西暦)	(2021)	(2022)	(2023)	(2024)	(2025)	(2026)	(2027)	(2028)	(2029)	(2030)
基本構想	[Blue arrow spanning from R3 to R12]									
基本計画	[Blue arrow spanning from R3 to R7]					[Yellow arrow spanning from R8 to R12]				
実施計画	3年間を基本的期間とし、必要に応じ見直す									

II章 多良間村の概況

1 多良間村の姿

多良間村は宮古島と石垣島のほぼ中間に位置し、北緯 24 度 39 分、東経 124 度 42 分にあり、東西 5.8km、南北 4.4km の楕円形をした多良間島（面積 19.75km²）と、その北西約 10km 先にあるさつまいもの形をした水納島（面積 2.15km²）の 2 つの島からなり（合計面積 21.91 km²）、気候は海洋亜熱帯性気候に属する。

多良間島は全体的に平坦な地形で、一番標高の高い場所は島の北側にある八重山遠見台の 34.19m である。島の内部はほとんどが耕作地として利用されていて、農作物や家屋を守るフクギ並木とともに豊かな緑をたたえている。

隆起サンゴ礁により形成された島は、河川のない石灰岩地帯特有の鍾乳洞やドリーネ等カルスト地形が発達し、鍾乳洞に流れる地下水が人々の生活を支えてきた。

島の周囲はサンゴ礁の美しい海に囲まれ、豊かな海の幸を育んでいる。

■多良間島・水納島全景



2 沿 革

多良間島の歴史は古く、琉球王朝尚真王(在位 1477～1527 年)の時代、その頃各地に点在していた小集落を現在の集落にまとめる等の活躍をして、多良間島主に任命されたのが

ンタハ°ルトウユミヤ
土原豊見親といわれている。

近世には平良・砂川・下地の3間切のいずれにも属さず、宮古の特別行政区として3人の頭が交代で管轄した。多良間島と水納島の2島で仲筋・塩川・水納の3村を構成し、あつかい役人として多良間首里大屋子、塩川与人、多良間目差、水納目差の4人が蔵元から派遣され、3年間(のちに2年間)常駐した他、耕作筆者、杣山筆者等も島外から赴任して島政にあたった。首里大屋子と与人が同時にあつかい役人として赴任する例は宮古の他の島にはなく、この点に特別行政区としての多良間島の性格がよくあらわれている。

また島には、士族がおり、下級役人として業務に従事した他、中には他島・他村の役人として赴任する者もいた。流刑地として、あるいはまた八重山への海上の要衝として重要な位置を占め、八重山から宮古の蔵元への連絡事務は多良間島を経由するのがならわしであった。

その後は、1908年(明治41年)特別町村制がしかれ、平良村の所轄となる。さらに1913年(大正2年)には平良村より分村し自治施行され多良間村となる。

多良間村村民憲章

私たち多良間村民は、恵まれた美しい自然と文化遺産の継承につとめ力をあわせて住みよい平和な郷土の発展を願いこの憲章を定めます。

私たち多良間村民は、

- 一、村の伝統文化を守り、心豊かで和やかな村づくりにつとめます。
- 一、自然を大切にされた活力ある村づくりにつとめます。
- 一、お互いに助け合いだれにも親切で礼儀正しい村づくりにつとめます。
- 一、としよりや子どもを大事にし、愛情ある村づくりにつとめます。
- 一、スポーツに親しみ健康で明るい村づくりにつとめます。

3 多良間村の地勢・気候・人口等

(1) 地勢・気候

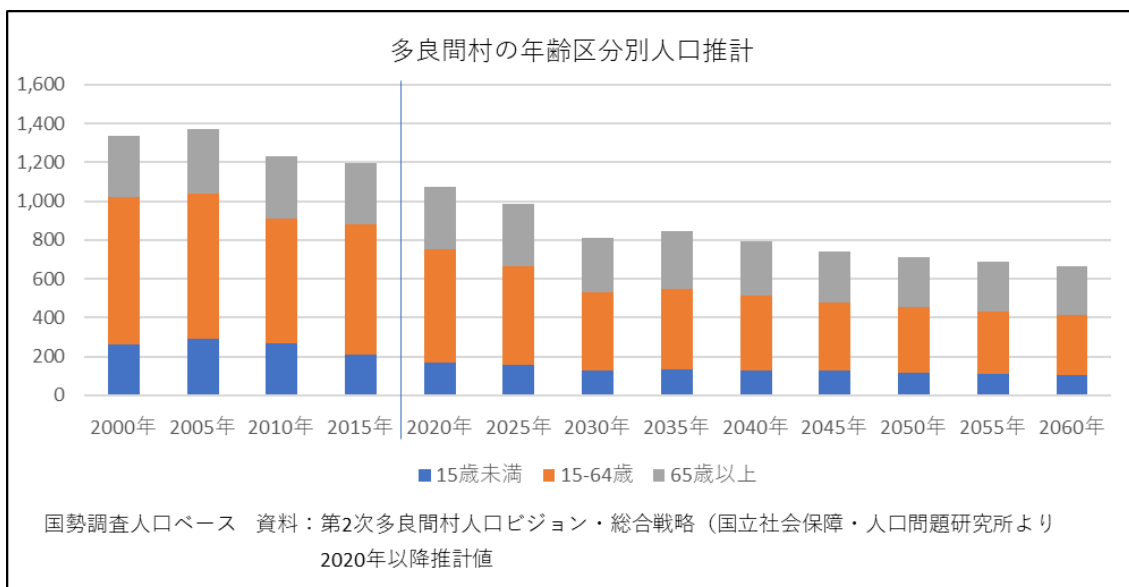
多良間村は、那覇から南西に約 320km 離れた宮古群島に属し、宮古島の西南西 67km、石垣島の北東 35km の海上に位置し、多良間島と水納島の隆起サンゴ礁の 2 島からなる。村面積は 21.91km²である。

気候は、海洋性亜熱帯気候に属し、年間の平均気温は約 23℃、平均湿度は約 80%、年間降水量約 2,000 mm と高温多湿な気候である。一年を通じて寒暖の差が小さい亜熱帯の穏やかな気候だが、夏から秋にかけては「干ばつ」や「台風」に見舞われることが多く、例年、農作物が被る被害は甚大である。特に地球温暖化等を要因とする気候変動によって、平均気温の上昇、降雨状況の変化が予想される。

(2) 人口・世帯数

第 2 次多良間村人口ビジョン・総合戦略による国勢調査ベースの人口推計（パターン 2：国立社会保障・人口問題研究所資料）によると、令和 2（2020）年の人口は 1,074 人と推計され（住民基本台帳人口：1,100 名、男 600 人・女 500 人）、近年、減少傾向が認められ、今後も減少するものと推計される。なお、世帯数は令和 2 年 10 月 1 日現在で 499 世帯である。

人口減少の主な要因として、生産年齢人口（15 歳以上 65 歳未満）の減少や若年者の島離れが挙げられる。対し、高齢者人口比率は増加傾向にあり、若年者人口比率の大きな減少は認められない。



単位：%	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
15歳未満	19.7	21.2	21.8	17.4	15.6	16.1	15.9	15.9	16.4	16.9	16.5	16.1	15.7
15-64歳	56.6	54.8	52.1	56.2	54.7	51.4	49.6	48.5	48.0	48.1	47.4	46.7	46.0
65歳以上	23.7	24.0	26.2	26.4	29.7	32.5	34.5	35.5	35.6	35.0	36.1	37.2	38.3
人口	1,338	1,370	1,231	1,194	1,074	984	813	847	793	738	712	688	666

国勢調査人口ベース 資料：第2次多良間村人口ビジョン・総合戦略（国立社会保障・人口問題研究所データ）

(3) 産業区分別就業者数・生産額

本村の国勢調査（平成27年）によると、第3次産業が44.9%、第1次産業が41.5%、第2次産業が21.7%であった。沖縄県全体では、第3次産業が73.5%と優先的であり、第1次産業が4.5%と少ないが、本村は、県や宮古圏域より第1産業の率が高い。ただし、ほとんどが農業であり、小区分別にみても圧倒的に多い。

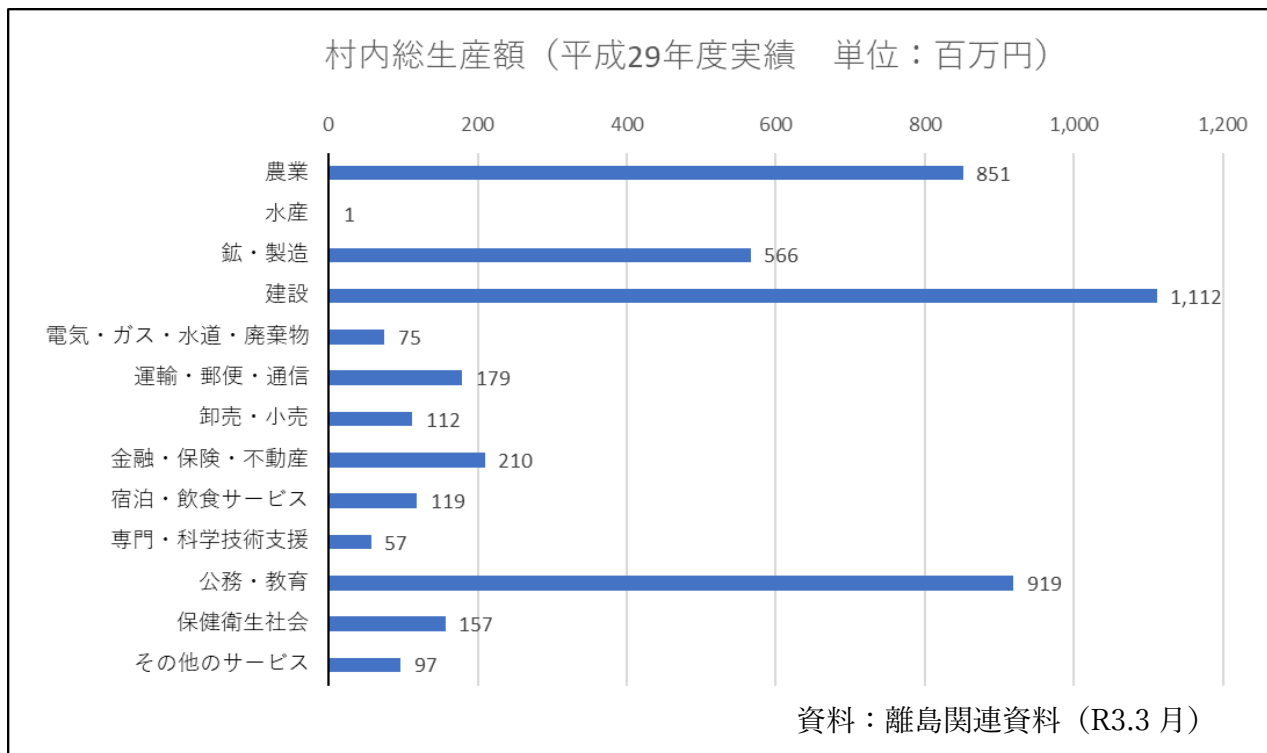
産業区分別就業者数（15歳以上）

平成27年：国勢調査

区分		第1次産業			第2次産業				第3次産業				
		農林業	漁業	小計	鉱業	建設業	製造業	小計	電気 ガス 熱供給 水道業	情報 通信業	運輸業 郵便業	卸売業 郵便業	金融業 保険業
多良間村	男	190	2	192	0	45	29	126	8	0	14	10	0
	女	66	0	66	0	4	5	9	1	1	4	25	0
	合計	256	2	258	0	49	34	135	9	1	18	35	0
	比率			41.5%				21.7%					
宮古圏域	比率			18.8%			13.3%						
沖縄県	比率			4.5%			13.8%						

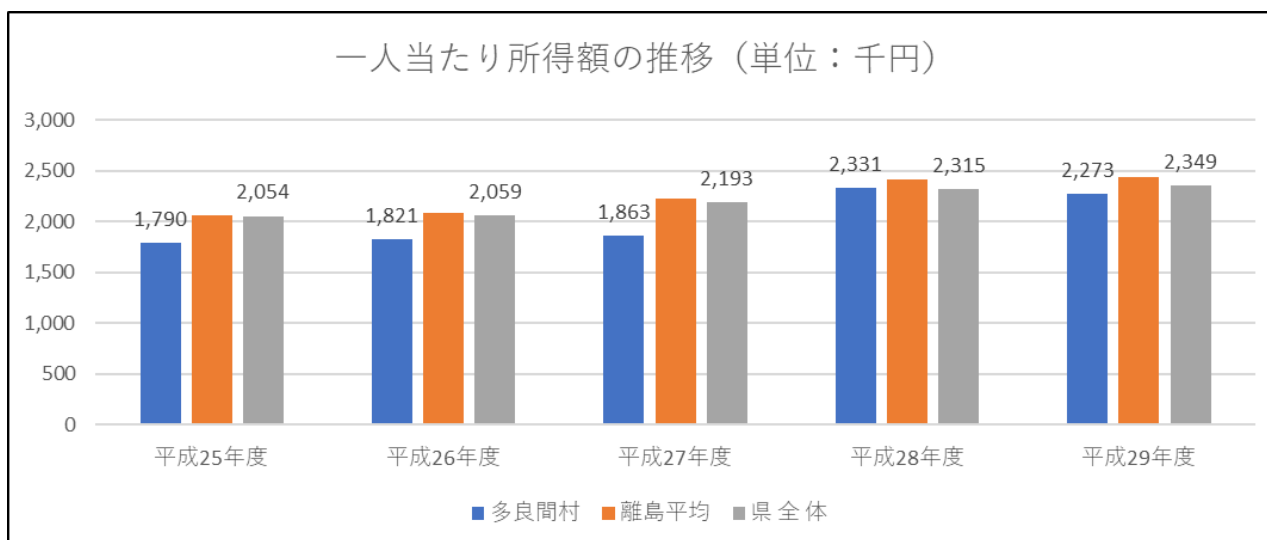
区分		第3次産業（つづき）										分類 不能	合計
		不動産 業 物品 賃貸業	学 研 専 門 技 術 サ ー ビ ス 業	宿 泊 業 飲 食 サ ー ビ ス 業	生 活 関 連 サ ー ビ ス 業 娯 楽 業	教 学 支 援 業	教 育 習 習 業	医 福 祉	複 合 サ ー ビ ス 業	サ ー ビ ス 業	公 務		
多良間村	男	0	9	7	4	13	3	8	9	41	126	0	392
	女	0	3	20	2	21	37	8	6	25	153	1	229
	合計	0	12	27	6	34	40	16	15	66	279	1	621
	比率										44.9%		100%
宮古圏域	比率										62.4%		100%
沖縄県	比率										73.5%		100%

本村の平成 29 年度の総生産額は、44 億 55 百万円であった。業種別では、建設業が最も多く 11 億 12 百万円 (25.0%)、次いで公務・教育が 9 億 19 百万円 (20.6%) と続き、就業者数が最も多い農業は 8 億 51 百万円 (19.1%) で 3 位である。結果、一人当たりに換算すると農業はかなり低い値になる。



(4) 村民所得の状況

村民の一人当たりの所得は、平成 29 年度で 227 万 3 千円であった。所得の推移は、年々上昇傾向にあるが、平成 28 年度を除き、県全体より低い。離島平均は県全体より高い傾向にある。



4 アンケートから見た多良間村の姿

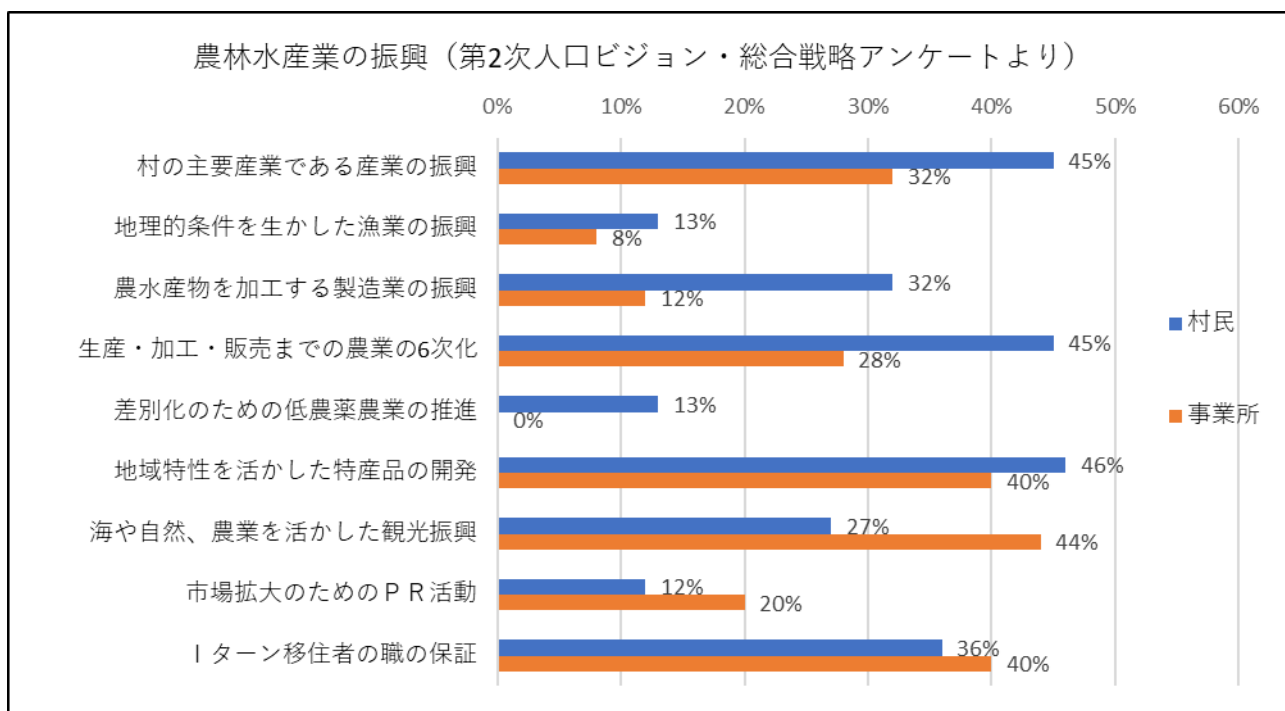
(1) 第2次多良間村人口ビジョン・総合戦略のアンケートから見た姿

第2次多良間村人口ビジョン・総合戦略の策定時のアンケートから見える多良間村民の意識の一部をまとめる。

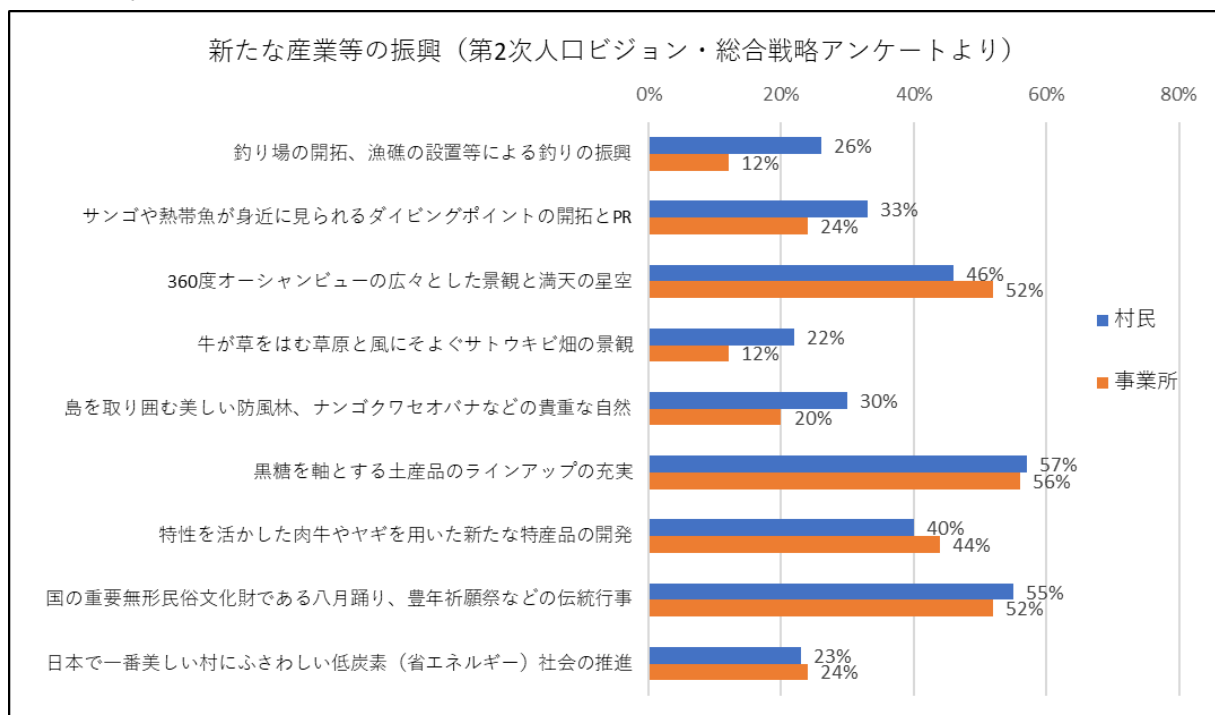
①農業・産業振興について

本村の経済基軸の1つである農業の振興について、村民の意識では「地域特性を生かした特産品の開発：46%」、「村の主要産業である農業の振興：45%」、「生産・加工・販売までの農業の6次化：45%」が多い。

一方、事業所では「海や自然、農業等を活かした観光振興：44%」、「地域特性を生かした特産品の開発：40%」、「Iターン移住者の職の保証：40%」などが多い。

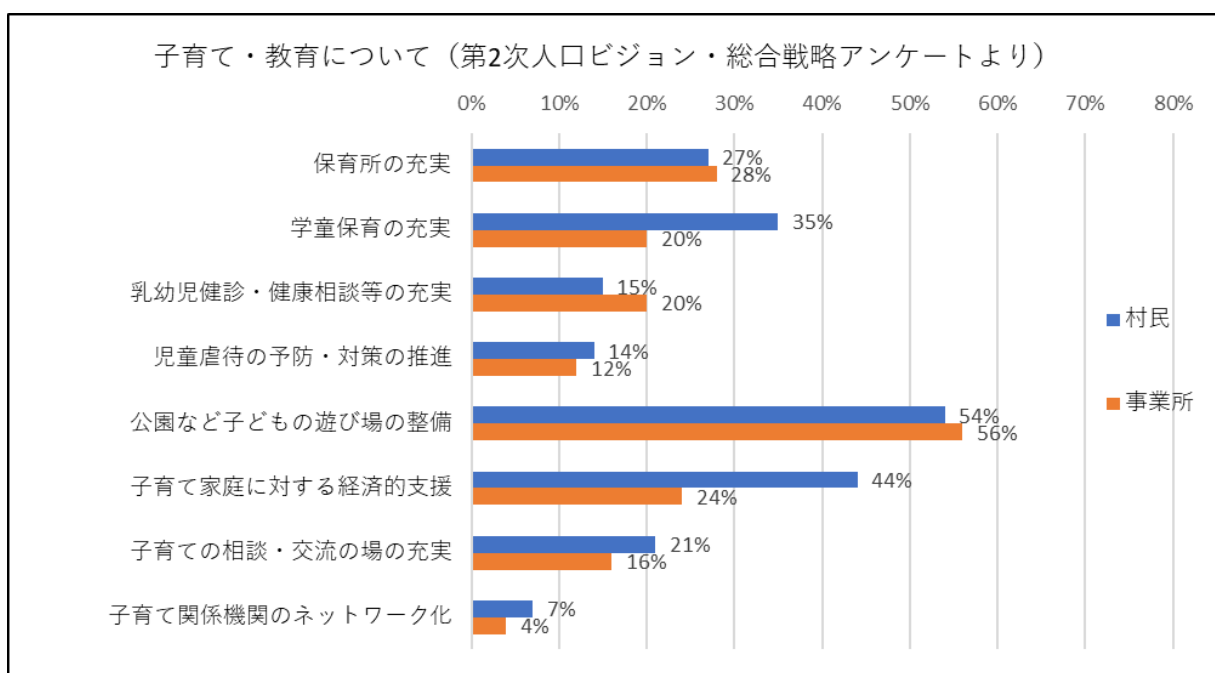


新たな産業等の振興については、住民・事業所ともに「黒糖を軸とする土産品のラインアップの充実：57%・56%」、「国の重要無形民俗文化財である八月踊り、豊年祈願祭などの伝統行事：55%・52%」、「360度オーシャンビューの広々とした景観と満天の星空：46%、52%」などが多い。



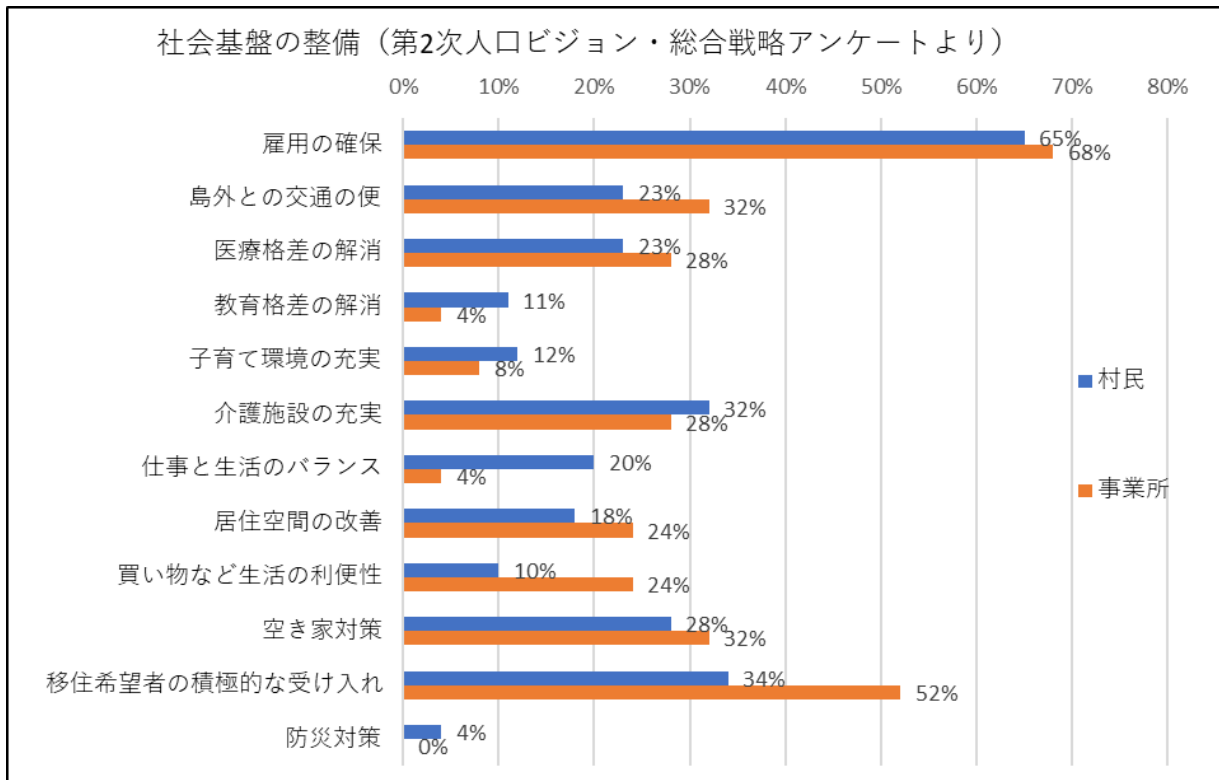
②子育て・教育について

子育て・教育については、住民・事業所ともに「公園など子どもの遊び場の整備：54%・56%」が多く、次いで、住民では「子育て家庭に対する経済的支援：44%」、「学童保育の充実：35%」が多く、事業所では「保育所の充実：28%」、「子育て家庭に対する経済的支援：24%」などが多い。



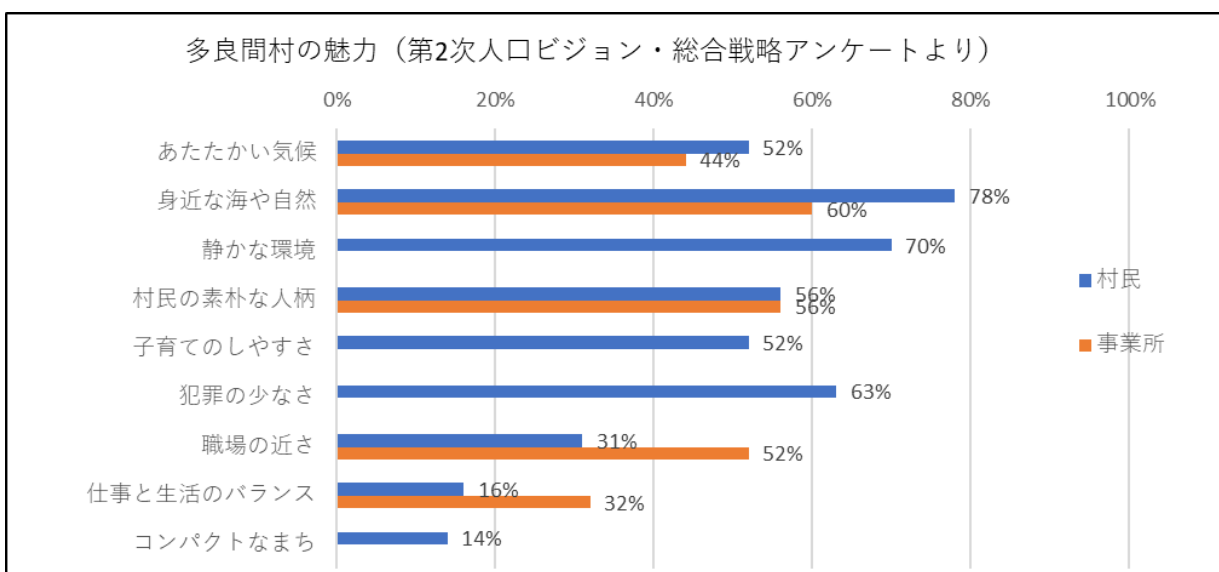
③社会基盤の整備について

社会基盤の整備については、村民・事業所ともに「雇用の確保：65%・68%」が多く、2位は、村民・事業所いずれも「移住希望者の積極的な受け入れ：34%・52%」であり、3位には、村民では「介護施設の充実：32%」であり、事業所では「島外との交通の便：32%」を挙げている。「防災対策」はともに低かった。



④多良間村の魅力と課題について

多良間村の魅力については、村民・事業所ともに「身近な海や自然：78%・60%」が多く、次いで村民では「静かな環境：70%」、「犯罪の少なさ：63%」と続く。事業所では、2位は「村民の素朴な人柄：56%」、「職場の近さ：52%」と続く。



⑤多良間村の課題（いやなところ）について

多良間村の課題については、村民、事業所に加え、生徒（中学生）と移住者にも行っている。ただし、すべてに同一質問を行ったものではない。

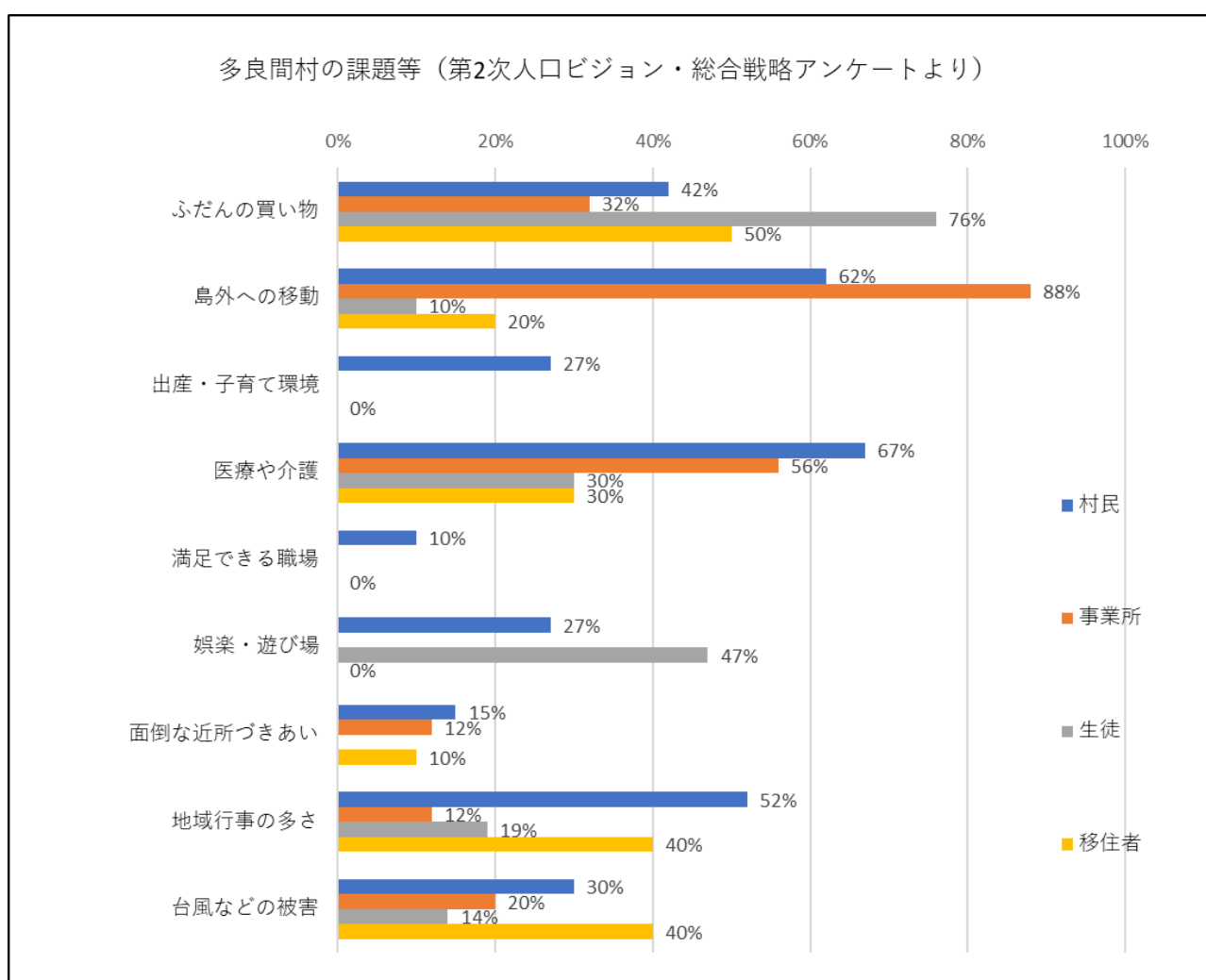
村民では、「医療や介護：67%」、「島外への移動：62%」、「地域行事の多さ：52%」、「ふだんの買い物：42%」などが多い。

事業所では、「島外への移動：88%」、「医療や介護：56%」、「ふだんの買い物：32%」などが多い。

生徒では、「ふだんの買い物：76%」、「娯楽・遊び場：47%」などが多い。

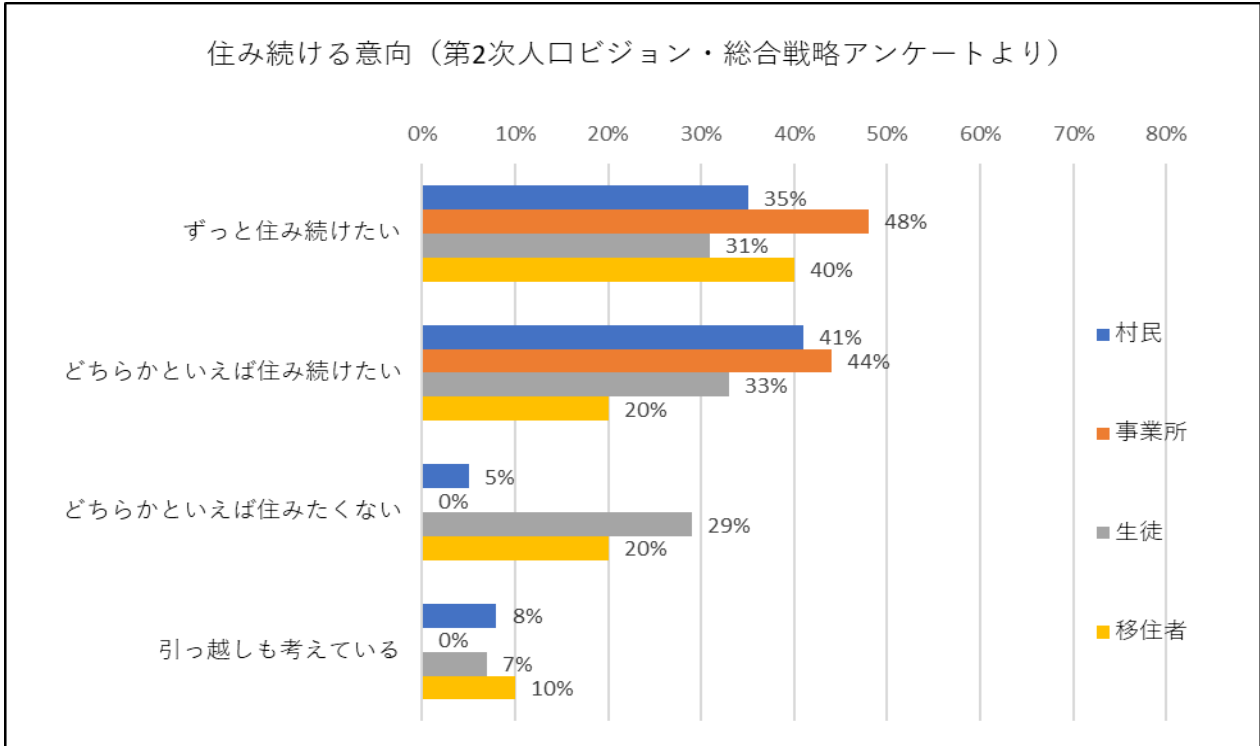
移住者では、「ふだんの買い物：50%」、「地域行事の多さ：40%」、「台風などの被害：40%」などが多い。

いずれでも高い課題を示したのは「ふだんの買い物」であった。



⑥多良間に住み続ける意向について

村民、事業所、生徒（中学生）、移住者に対して、多良間村に住み続けたいかどうかの意向について訪ねたところ、全体的に「ずっと住み続けたい：35%・48%・31%・40%」が多く、「どちらかといえば住み続けたい：41%・44%・33%・20%」が続き、両者で大半を占める状況である。「住みたくない」は、生徒で29%、移住者で20%を占める。

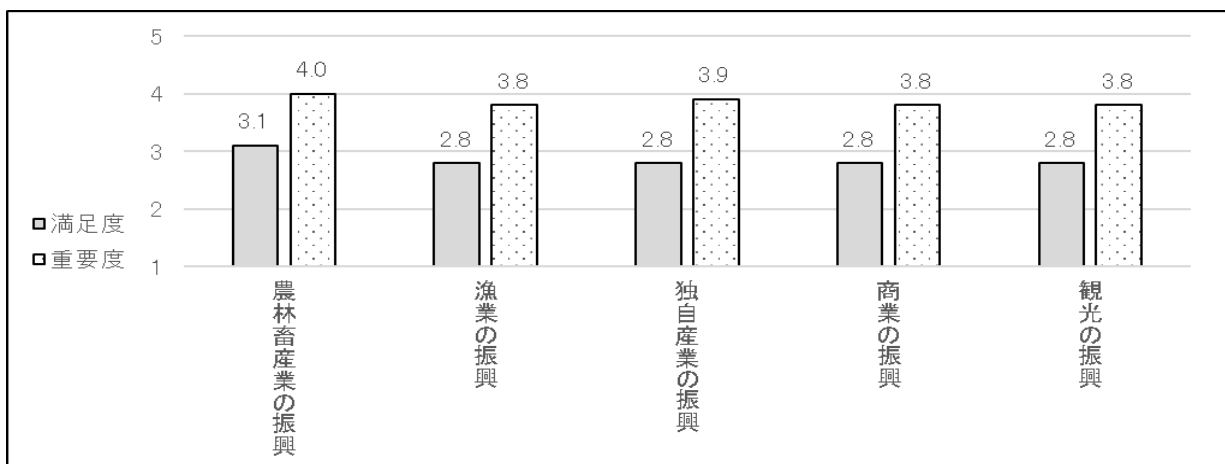


(2) 本計画策定に関するアンケートから見た住民の意識・姿

村の基盤整備や暮らし等に対する満足度・重要度について5段階で評価し、その平均値で比較評価した。

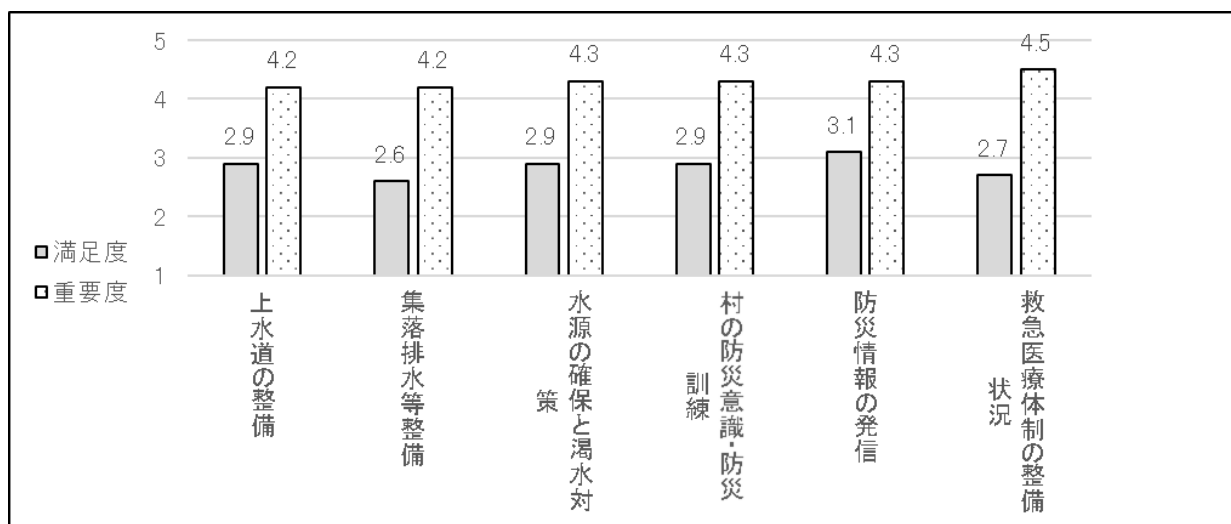
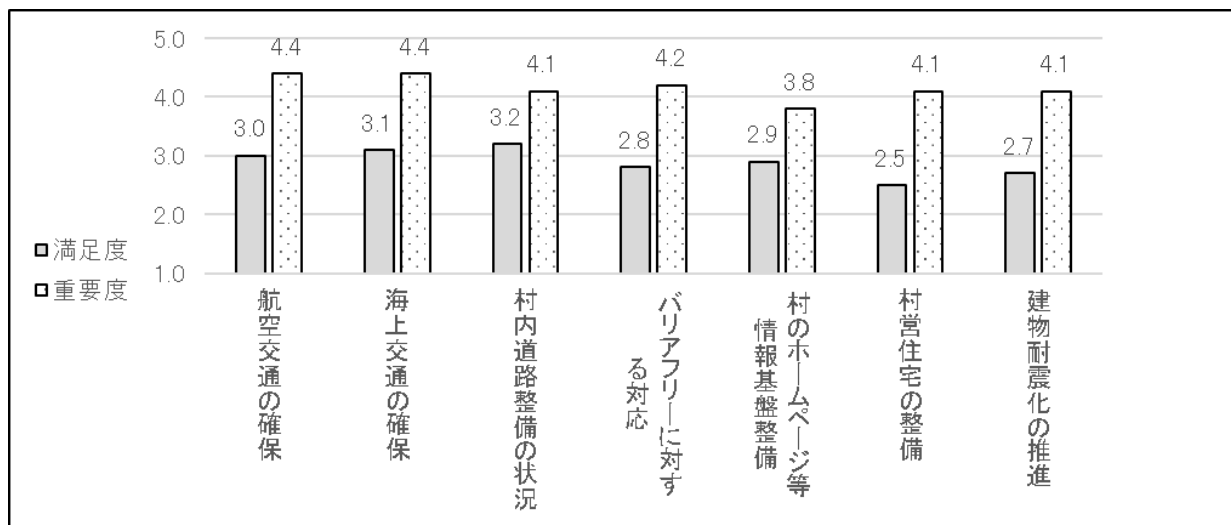
①商業振興について

「独自産業の振興」が1.1ポイントと最も大きく、以下「漁業の振興」「商業の振興」「観光の振興」がそれぞれ1.0ポイントと同率で続く。



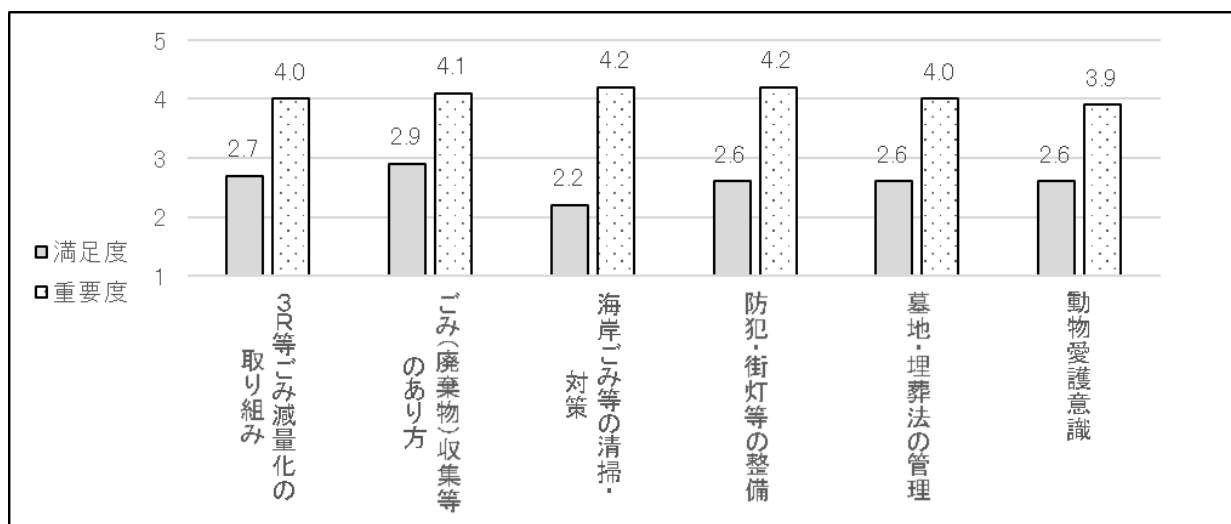
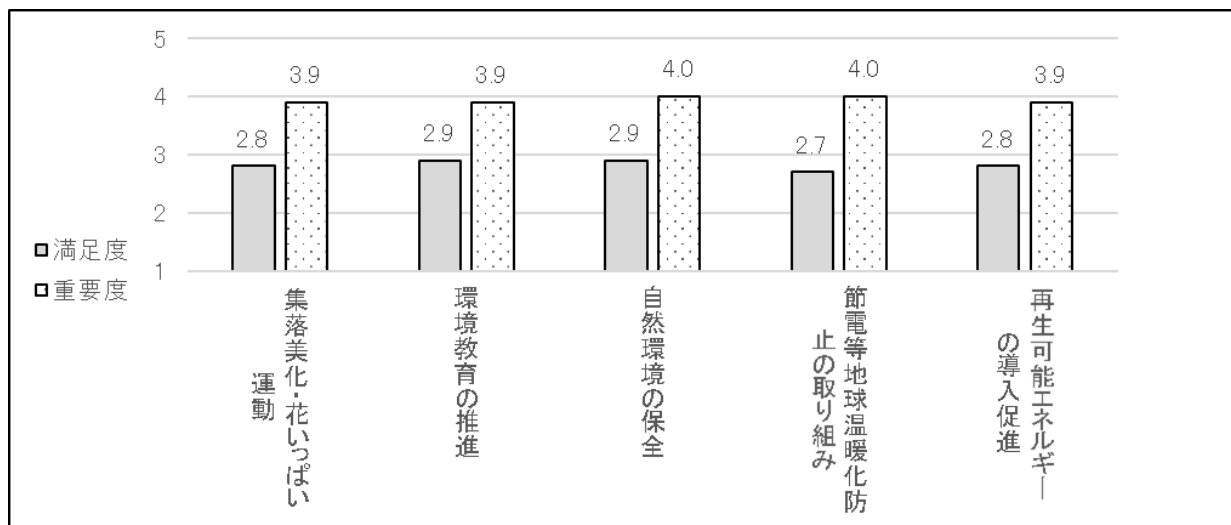
②基盤整備について

満足度と重要度の差が大きいものについて、「救急医療体制の整備状況」が1.8ポイントと最も大きく、以下「村営住宅の整備」「集落排水等整備」が同率で1.6ポイントである。



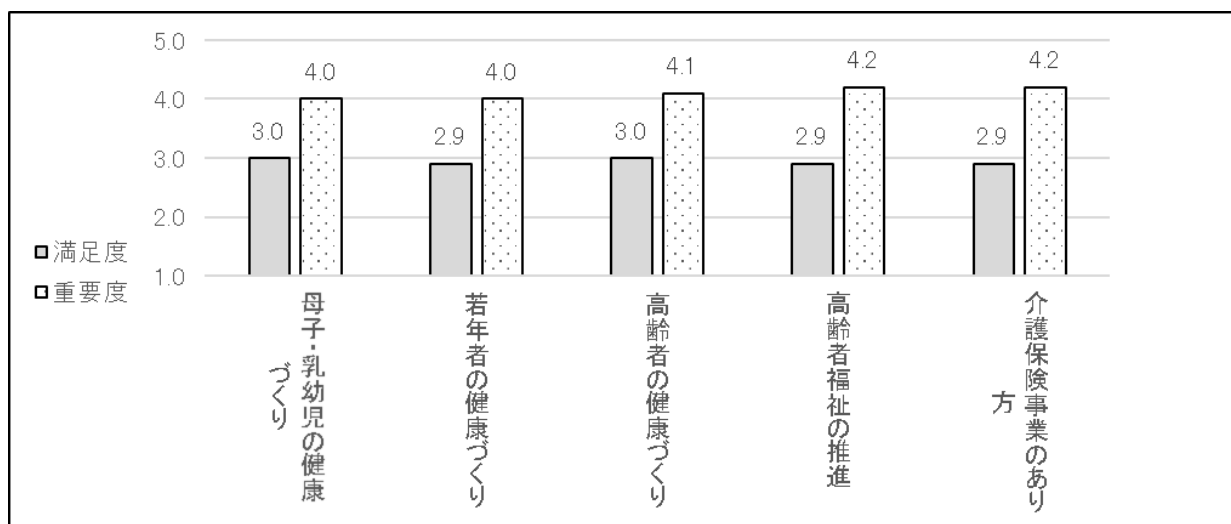
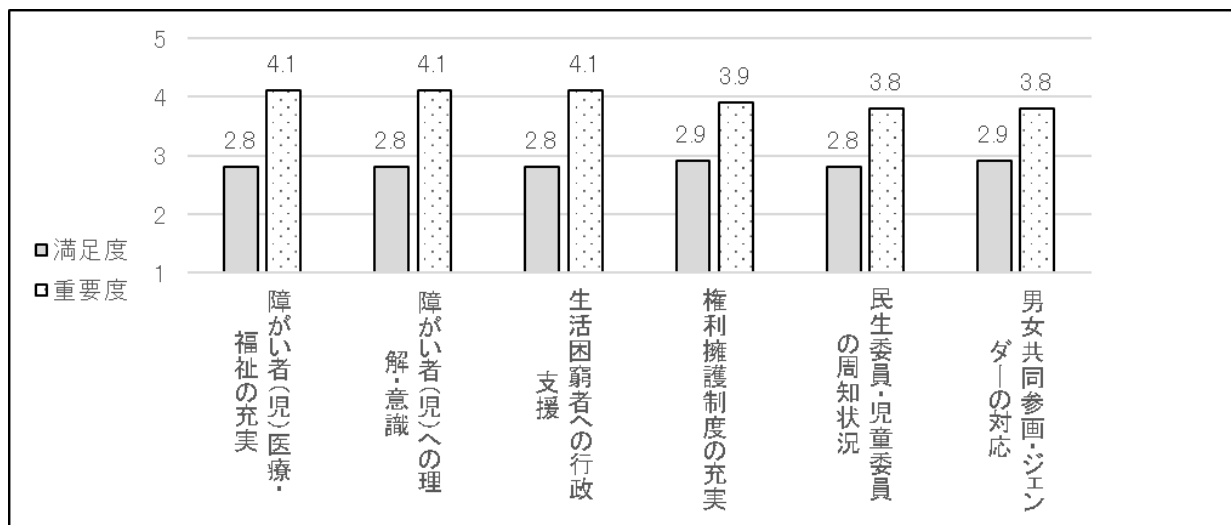
③持続可能な生活・環境づくりについて

「海岸ごみ等の清掃・対策」が2ポイントと最も大きく、以下「防犯・街灯等の整備」1.6ポイント、「墓地・埋葬法の管理」1.4ポイントと続く。



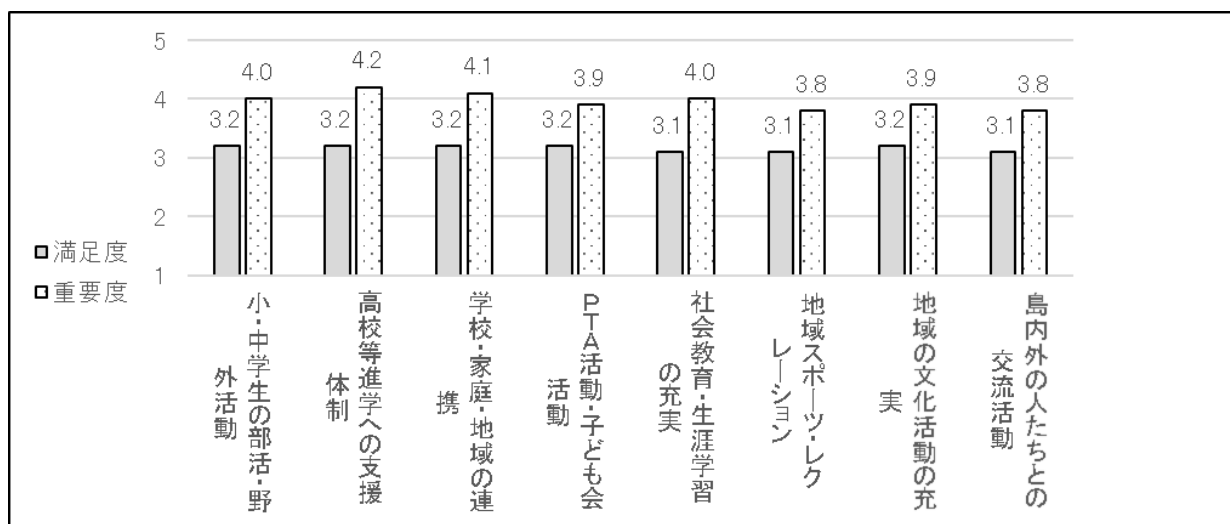
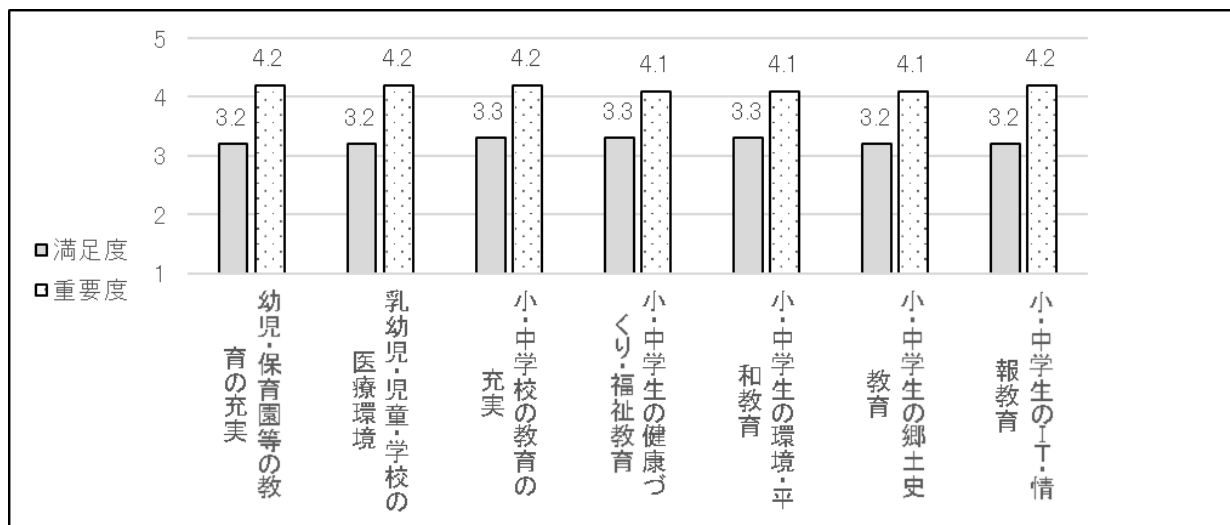
④健康・福祉事業等について

「高齢者福祉の推進」「介護保険事業のあり方」「障がい者（児）医療・福祉の充実」「障がい者（児）への理解・意識」「生活困窮者への行政支援」が1.3ポイントと最も大きい。



⑤教育・人材育成・地域づくりについて

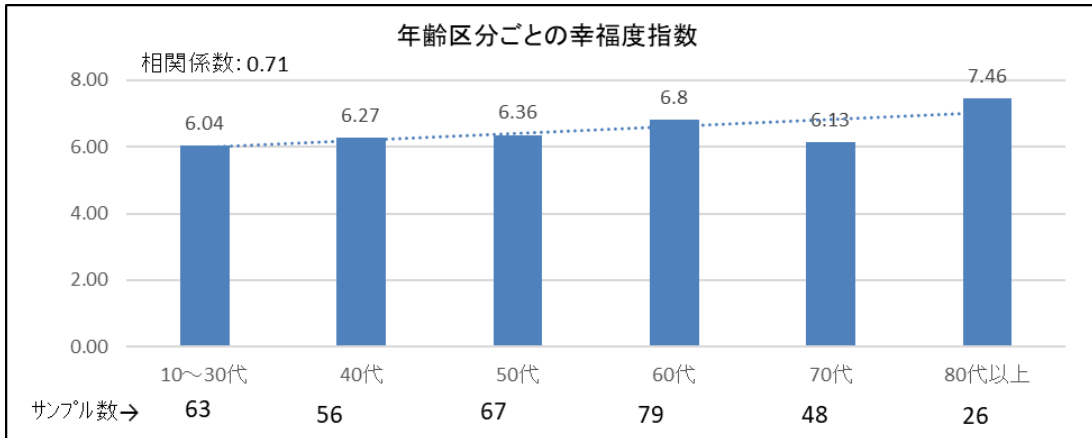
「幼児・保育園等の教育の充実」「乳幼児・児童・学校の医療環境」「小・中学生のIT・情報教育」「高校等進学への支援体制」が同率で1ポイントと最も大きい。



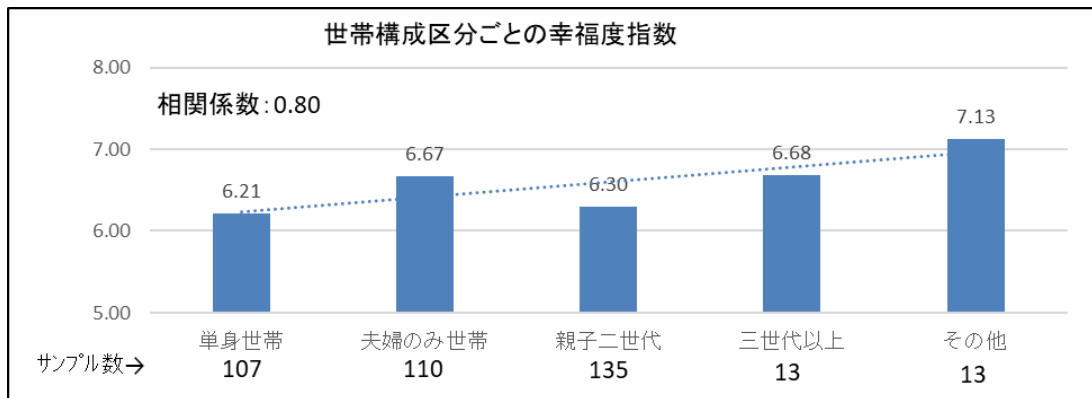
⑥村民の幸福度意識について

アンケートでは、0点から10点までの点数で、幸福度について設問した。幸福度評価は個人の主観ではあるが、数値的に評価できることなどから、各アンケートで近年実施されている。なお、相関係数は、1に近づくほど項目との相関度が高いことを示している。

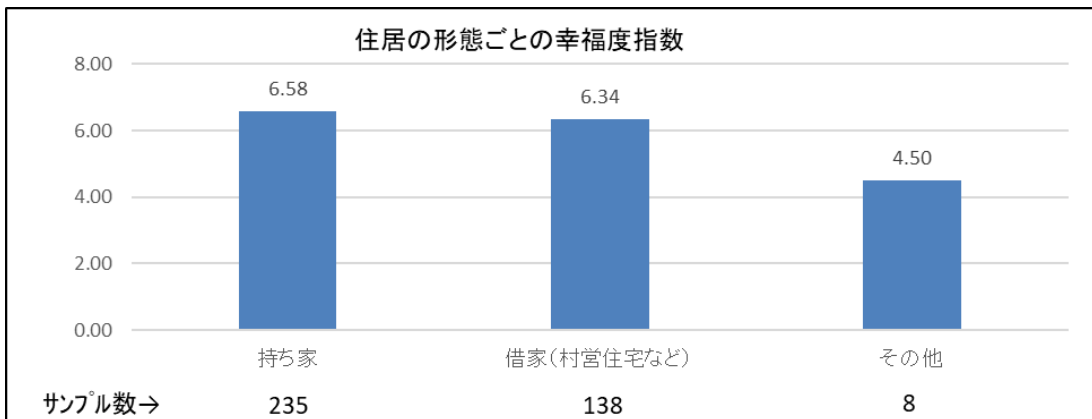
- 年齢区分ごとの幸福度**：年齢が上がるごとに幸福度が増す傾向が確認できるが、相関度は必ずしも高くない。



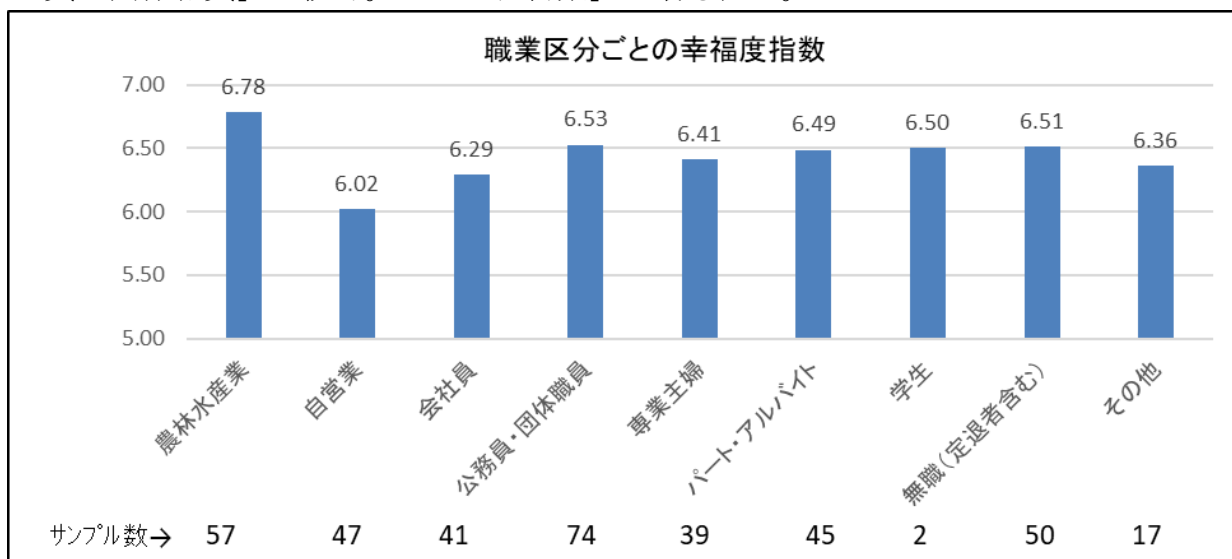
- 世帯区分ごとの幸福度**：単身世帯より家族が多くなる方が幸福度は増す傾向が確認できるが、相関度は高くない。



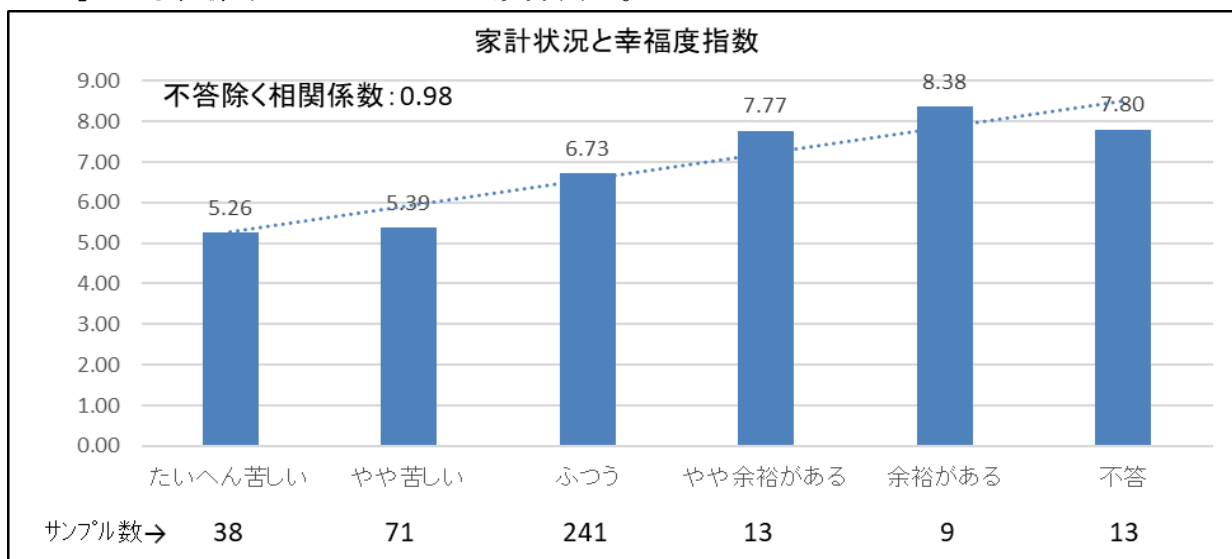
- 住居の形態ごとの幸福度**：借家（村営住宅含む）よりも持ち家の方が幸福度は高い。



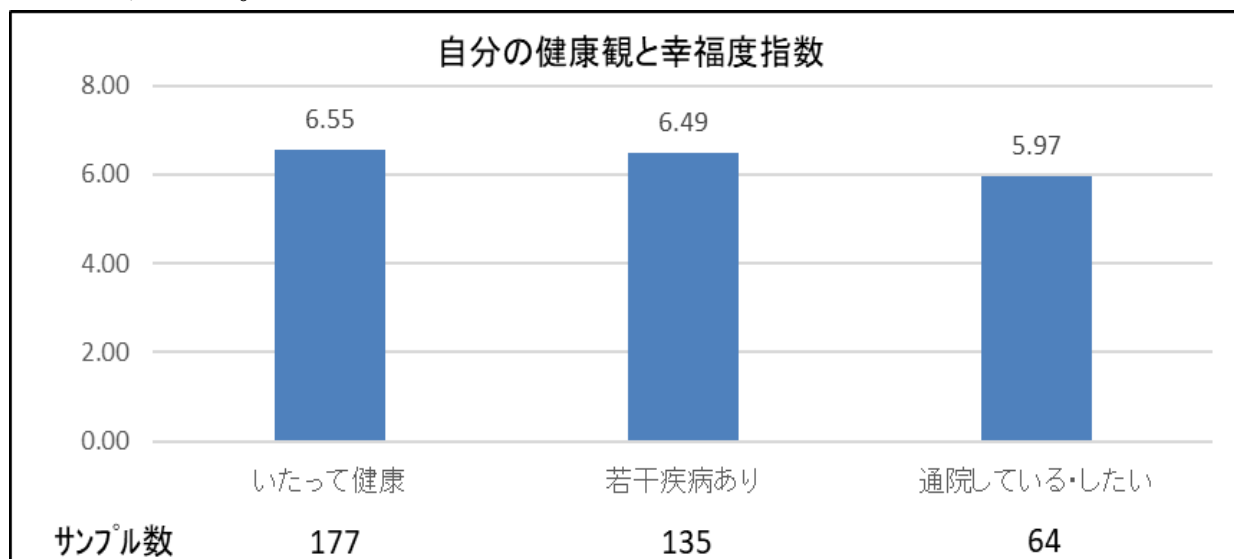
●**職業区分ごとの幸福度**：最も幸福度の高い職業は「農林水産業」である。次いで「公務員・団体職員」と続く。一方「自営業」は最も低い。



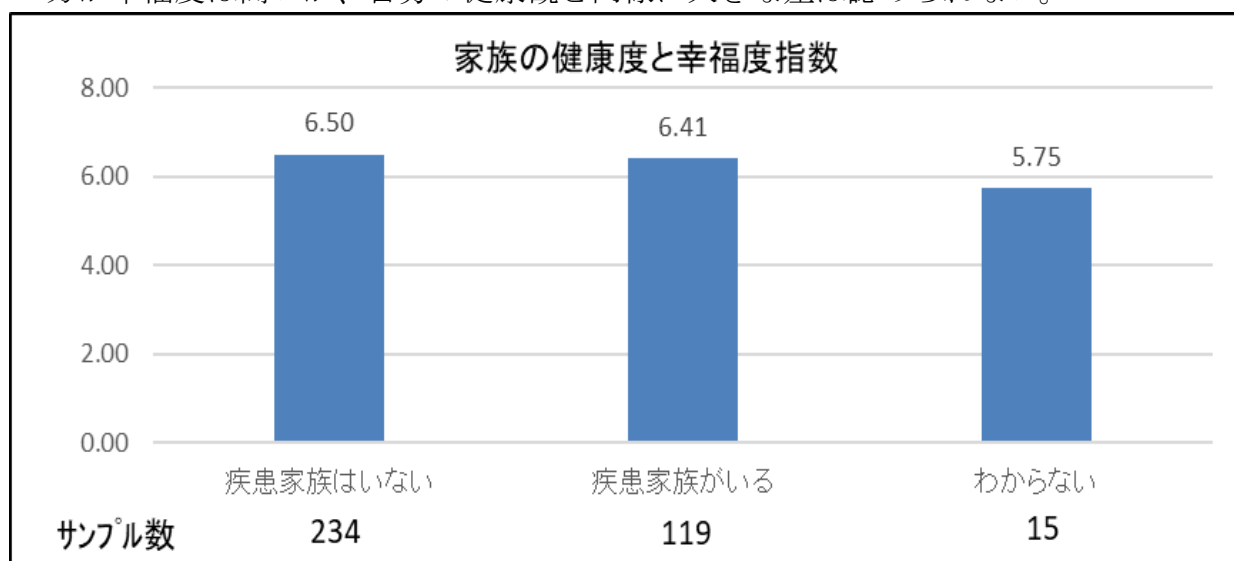
●**家計状況と幸福度**：家計の状況と幸福度は、強い相関が認められる。「余裕がある」回答は 8.38 点であるのに対し、「大変苦しい」は 5.26 と低下する。ただし、「大変苦しい」でも、標準点の 5 点よりは幾分高い。



- 自分の健康観と幸福度：健康ほど幸福度は高いと想定されるが、疾病の有無による差は大きくはない。



- 家族の健康と幸福度：家族に何らかの疾患がある方の幸福度において、「いない」の方が幸福度は高いが、自分の健康観と同様に大きな差は認められない。



⑦小・中学生へのアンケート結果（抜粋）

本計画を策定するにあたり、小学生・中学生ほぼ全員を対象としてアンケートを実施した。その結果を抜粋して下記にまとめる。なお、少数意見（1人回答）は割愛する。

- 多良間村にあったらよいと思うもの：小学生は、コンビニ、水族館、ゲームセンター、公園、本屋などが多く、中学生では、大型スーパー、本屋、コンビニなど生活に直結する商業施設が多かった。

多良間村にあったらよいと思うものはなんですか

小学生の部 集計	回答数	割合(%)
コンビニ	22	11.8
水族館	22	11.8
ゲームセンター	17	9.1
公園	13	7.0
本屋さん(TSUTAYA・のづ文具・文房具屋さん含む)	13	7.0
動物園	10	5.4
ファーストフード(マック)	9	4.8
映画館	8	4.3
大型スーパー(サンエー・服屋さん・靴屋さん・百貨・ダイソー・イオン・お店・スポーツショップ等)	8	4.3
遊園地	8	4.3
遊具(トランポリン・ジャンボ滑り台・ジェットコースター等)	6	3.2
回転寿司	5	2.7
ドンキホーテ	5	2.7
ペットショップ(ドッグラン含む)	4	2.2
飲食店(レストラン・そば屋・アイス屋・かき氷屋)	3	1.6
ホテル	3	1.6
パン屋さん	3	1.6
カフェ(猫カフェ含む)	3	1.6
大きな病院	2	1.1
遊技場(ボウリング場・ボウリング場)	2	1.1
ショッピングモール(パルコ・ジャスコ・ライカム)	2	1.1
おもちゃ屋さん	2	1.1
合計	186	100.0

中学生の部 集計	回答数	割合(%)
大型スーパー(サンエー・服屋さん・靴屋さん・百貨・ダイソー・イオン・お店・スポーツショップ等)	23	27.7
本屋さん(TSUTAYA・のづ文具・文房具屋さん含む)	17	20.5
コンビニ	11	13.3
公園	4	4.8
飲食店(レストラン・そば屋・アイス屋・かき氷屋)	3	3.6
ショッピングモール(パルコ・ジャスコ・ライカム)	3	3.6
水族館	3	3.6
美容院	3	3.6
ゲームセンター	2	2.4
ファーストフード(マック)	2	2.4
大きな病院	2	2.4
合計	83	100.0

- 多良間村の10年後の姿（希望）について：小学生では「子どもがたくさん」「ごみが少ない村・きれいなぴかぴかな村・ポイ捨てがない村」が多く、中学生では「子どもがたくさん」「おじいとおばあが元気な島」「自然が豊かな島」「みんなが元気な島」など、仲間や家族が多い状況や自然環境・環境保全などの意向が多かった。

- もし村長になったらどんなことがしたいか：小学生では「安心して楽しめる村」「イベント、お祭りをしたい」が多く、中学生では「安心して楽しめる村（島外から来た人も）」「イベント、お祭りをしたい」が多かった。概して、地域コミュニティーの確立が意向とされる。

多良間村が10年後、どんな村になってほしいですか

小学生の部 集計	回答数	割合%
子どもがたくさん	11	12.1
ごみがない村・きれいなびかびかな村・ポイ捨てがない村	10	11.0
にぎやかな村・活気があふれている村	9	9.9
平和な村・やさしい人がいっぱい・みんな仲良し	6	6.6
みんなが元気な村	6	6.6
明るく・楽しい村	5	5.5
おじいとおばあが元気な島	5	5.5
海がきれいな村・魚がいっぱい・ごみがない	5	5.5
観光客がたくさん訪れる村	5	5.5
今のまま	4	4.4
人口が多い島・たくさんの人がいる島	3	3.3
自然が豊かな村	3	3.3
みんなが幸せな村・みんなが笑顔	3	3.3
コロナがない村	3	3.3
犯罪のない安全な村	2	2.2
未回答	2	2.2
合計	91	100.0

中学生の部 集計	回答数	割合%
子どもがたくさん	8	14.8
おじいとおばあが元気な島	7	13.0
自然が豊かな村	6	11.1
みんなが元気な村	6	11.1
人口が多い島・たくさんの人がいる島	5	9.3
ごみがない村・きれいなびかびかな村・ポイ捨てがない村	3	5.6
お店がたくさん・近くにお店がある	3	5.6
平和な村・やさしい人がいっぱい・みんな仲良し	2	3.7
明るく・楽しい村	2	3.7
にぎやかな村・活気があふれている村	2	3.7
豊かな村	2	3.7
合計	54	100.0

もし村長になったらどんなことがしたいですか

小学生の部 集計	回答数	割合%
安心して、楽しめる村	18	25.4
イベント、お祭りをしたい	11	15.5
ない・まだ	4	5.6
コロナをなくしたい	3	4.2
花火大会	3	4.2
平和な多良間にしたい	3	4.2
ゲームセンターをつくりたい	3	4.2
温泉、デパート、コンビニをつくる	3	4.2
みんなを守りたい・多良間を守る	2	2.8
元気な村・子どもが元気な村	2	2.8
お金をあげる	2	2.8
わからない	2	2.8
みんなにとって過ごしやすい、いい村	2	2.8
未記入	2	2.8
合計	71	100.0

中学生の部 集計	回答数	割合%
安心して、楽しめる村(島外から来た人も)	8	22.2
イベント、お祭りをしたい	6	16.7
お店、レストランをたくさん作り、毎日みんなが笑顔になるような村にしたい	3	8.3
しごとがいっぱい・皆が楽しくて職につける村、職業を増やす村民の意見を取り入れる村	2	5.6
みんなが楽しめる行事をつくる	2	5.6
走る競技を少なくする	2	5.6
合計	36	100.0

III章 県内外の潮流

1 21世紀社会の潮流

□参画と協働の潮流

近年の行政運営は、住民参加、住民との協働なくしては遂行できない。住民がどんな将来を目指しているのか、どんなところに「地域を自覚」し、「何を残し、何を变えて、どんな地域に変革していくか」等を住民参加のもとに合意形成し、参画と協働によって自分たちの地域づくりを獲得することは時代の潮流といえる。

□少子高齢化の潮流

生まれてくる子どもが少なくなり、高齢者の層が厚い社会というのは、やがて人口減少社会に転じることになる。我が国はその時代に突入しているが、生まれる子どもが多いことで知られる沖縄県もまた、2025年を過ぎたあたりから人口減少社会に転じるとされ、本村もまた、その潮流の中にあり、その状況を踏まえたくえで本村の将来像を考え、村づくりを展開しなければならない。

地域の活性化は一朝一夕に実現できない。自らの足元を見つめ、様々な可能性を探り、小さなことから活力を生み出し、育てていくことが持続的な発展への一歩である。また、子育てしやすい仕組みを強化することは、子育て世代を受け入れることにつながる。安心して暮らせる地域福祉の仕組みづくりや安全で快適な居住環境づくりは村民定住の条件であり、Iターン者・Uターン者や移住者を受け入れる吸引力でもありとえられる。

□人と自然の共生の潮流

本村の存在は、地球あつての存在である。近年、この当たり前だと思われてきたことが強く認識されている。過去には、大量生産、大量消費、大量廃棄が経済発展のバロメーターとされてきたが、この方向性では地球そのものが立ち行かなくなっていることが確認され、「環境共生社会」や「循環型社会」への転換が取りあげられるようになった。

また、地球温暖化防止や生物多様性等、一見生活には結び付きにくい問題も、実は住民個々の足元からの対策が重要であることも認識され始めた。地球温暖化防止問題は、近年、毎日のようにマスコミでも取りあげられ、国際問題にもなっている。また、人類を含めて地球上のすべての生物は、その生態系の中で関連しあい、生命を維持していることから生物多様性の維持も人類の存続に不可欠のことであることもわかった。

このように、人は自然の中で生き、自然との共生・調和なくして、健康の維持、生命の維持、快適な地域の形成はできないことを住民各自が自覚し、次代のために、一人ひとりが環境問題に取り組まなければならない。

□国際化・情報化の潮流

情報社会の到来は、コミュニケーション形成における時間的・地理的な制約をとりはらい、様々な社会の変容を加速している。誰もが、電子ネットワークを介して行政に参画することもできるようになってきている。情報共有という手段によって、世界の国々が身近に感じられるようになり、誰もが世界で活躍する夢を実現できるチャンスをもっている時代といえる。

一方、私達はグローバルな社会の持つあやうさも、世界的経済不況の体験を通じて、あらためて実感している。特に子ども達は、この社会状況を受け止めていかななくてはならない。社会の国際化・情報化に対応できる人材を育成するためには、英語教育や IT 教育に力を注ぐことが大切であるが、その前提に「人間愛」、「郷土愛」等の人間力教育が必要である。さらに、自己をしっかりと見つめた上で、生活様式やもののとらえ方の違いを認識し、尊重できる人間形成が重要である。美しい郷土づくりと国際化・情報化の潮流に乗れる人材の育成は、関連しあう課題といえる。

□地域文化発信の潮流

この地球上に形成されるあらゆる「コミュニティ」と称される地域社会単位は、それぞれが刻んできた歴史のもとに形成されてきた仕組みを持って成り立っている。その仕組みは、まるで生きている樹木のごとく、時代の潮流に影響され、刻々と変化を遂げている。

今の時代の国際化や情報化の進むライフスタイルによって、様々なコミュニティで人間関係の希薄化や伝統文化の継承難が起こっている。

幸いにして、本村には連綿と継承されてきた「八月踊り」や「スツウプナカ」等の伝統芸能・祭祀文化が色濃く残っており、住民の継承の意欲も高い。これらは、村の誇りを発信するアイデンティティの源であり、子ども達が郷土愛を育む土壌でもある。

□災害対策・感染症対策充実の潮流

近年、世界的に地球温暖化を起因とする大雨・洪水、台風の大型化、異常乾燥、干ばつの発生など気候変動が顕著になっている。これに対応する災害対策（適応策）が急がれる。また、地球温暖化の影響は、熱中症の増加や害虫などが媒介する未知の感染症の発生も懸念されている。さらには、農作物や畜産への被害も懸念され、温暖化に対応した作物・育種等の研究開発が急がれる。なお、災害に対しては、地震・津波の研究も進み、近年、沖縄近海での発生も心配されており、合わせて対応が急がれる。

また、2019 年後半より世界的に発生した新型コロナウイルス (COVID-19) の蔓延パンデミックによって、社会活動へ多大な影響があり、「ウィズコロナ、アフターコロナ」という対応が迫られている。今後も類似した感染症等の蔓延を想定した対応を準備しなければならない。

□持続可能な開発・社会構築の潮流

国連は、2015 年に「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ：SDGs」を採択し、2030 年までの行動目標を示した。なかでも気候変動に対する行動は喫緊の課題として挙げられる。気候変動（地球温暖化防止）の最大の要因は、エネルギーの化石燃料（石油・石炭等）の依存であり、日本政府は 2050 年までに二酸化炭素排出実質ゼロ（カーボンニュートラル）を目指している。これには新エネルギーの開発、対応が急がれる。

2 沖縄県の21世紀ビジョン（概要）

沖縄21世紀ビジョン基本計画（後期計画：平成29年度～平成33年度）では、次の5つの将来像を掲げ推進している。

- 将来像Ⅰ 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島
- 将来像Ⅱ 心豊かで、安全・安心に暮らせる島
- 将来像Ⅲ 希望と活力にあふれる豊かな島
- 将来像Ⅳ 世界に開かれた交流と共生の島
- 将来像Ⅴ 多様な能力を発揮し、未来を拓く島

また、宮古圏域での取り組みについて、以下の体系を示し、市町村との連携を目指している。

- 環境共生社会の構築
- 拠点都市機能の充実
- 圏域の特徴を生かした産業の振興
 - ◎(ア) 観光リゾート産業等の振興と産業イノベーションの推進
 - ◎(イ) 農林水産業の振興
- 生活圏の充実
 - ◎(ア) 生活環境基盤等の整備
 - ◎(イ) 保健医療・福祉関連機能の充実
 - ◎(ウ) 公平な教育機会の確保等
- 国際交流等の推進

次期計画の基礎となる新たな沖縄振興計画（素案：令和3年5月）においては、本土復帰50年の節目を迎える中で、国内外の新たな時代潮流等を踏まえつつ、次期振興計画（令和4年度～令和13年度）の策定検討を行っている。その施策展開の基本的方向性を次のように見据えている。

- 平和で生き生きと暮らせる「誰一人取り残すことのない優しい社会」の実現
- 世界とつながり、時代を切り開く「強くしなやかな自立型社会」の構築
- 人々を惹きつけ、ソフトパワーを具現化する「持続可能な海洋島しょ圏」の形成

また、宮古圏域での展開において「農林水産業及び地場産業の振興」の項目で、多良間村に関連する振興として、「多良間村の含蜜糖生産については、農家の所得安定及び製糖事業者の経営安定化に向けた支援と併せ、黒糖ブランドの確立、販路開拓等による需要拡大を図る」としている。さらには畜産業について、「多良間村では、山羊を活用品目として位置づけ、推進する」とある。

多良間島では、海洋レジャー、自然観察など豊かな観光資源を活用した多様な取組を促進する。また、多良間村の八月踊り等の伝統文化等を生かした地域づくり等、多良間の魅力を高める。

3 SDGs の推進

総合計画とは、自治体が施策・事業を総合的かつ計画的に展開するために、一定の期間（計画期間）を設定して達成すべき目標とそのための施策・事業を定める計画・方針をいう。






2015年9月、ニューヨーク国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」では、日本を含む193の加盟国が「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択した。国際社会が2030年までに、貧困のない、持続可能な世界を次世代に受け継ぐための重要な指針として、17の持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals : SDGs と169のターゲットが盛り込まれ、「誰一人取り残すことのない優しい社会」の構築を目指している。

SDGsの実現には、国だけでなく地域レベルでの参画が不可欠で、地方自治体、民間企業、教育・研究機関といった多様なステークホルダーの連携が求められるなか、地域の現場では「SDGsの計画策定をこれから実施しようとしているが、どこから始めたらいいいのかわからない」という声が多く挙がってきている。今期計画において多良間村でも持続可能な社会を目指し、自治体においてもこのような世界基準の取り組みを推進する。



【SDGs の 17 の目標】

 <p>1 貧困をなくそう</p>	<p>【目標 1】 貧困をなくそう あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。</p>
 <p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>【目標 2】 飢餓をゼロ 飢餓を終わらせ食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を推進する。</p>
 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>【目標 3】 すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。</p>
 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>【目標 4】 質の高い教育をみんなに すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。</p>
 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>【目標 5】 ジェンダー平等を実現しよう ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。</p>
 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<p>【目標 6】 安全な水とトイレを世界中に すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。</p>
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>【目標 7】 エネルギーをみんなに そしてクリーンに すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。</p>
 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>【目標 8】 働きがいも経済成長も 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する。</p>
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>【目標 9】 産業と技術革新の基盤をつくろう 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及び技術革新（イノベーション）の推進を図る。</p>
 <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p>【目標 10】 人や国の不平等をなくそう 各国内及び各国間の不平等を是正する。</p>
 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>【目標 11】 住み続けられるまちづくりを 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する。</p>
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>【目標 12】 つくる責任 つかう責任 持続可能な生産消費形態を確保する。</p>

 <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p>	<p>【目標 13】 気候変動に具体的な対策を 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。</p>
 <p>14 海の豊かさを 守ろう</p>	<p>【目標 14】 海の豊かさを守ろう 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。</p>
 <p>15 陸の豊かさも 守ろう</p>	<p>【目標 15】 陸の豊かさも守ろう 陸上生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する</p>
 <p>16 平和と公正を すべての人に</p>	<p>【目標 16】 平和と公正をすべての人に 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任ある包摂的な制度を構築する</p>
 <p>17 パートナーシップで 目標を達成しよう</p>	<p>【目標 17】 パートナーシップで目標を達成しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。</p>

IV章 基本構想

1 多良間村の目指す姿

果てしなく広がる大海原、ひとときわ輝くエメラルドグリーンของサンゴ礁、白い砂浜、深い緑を湛えた林とさとうきび畑、赤や黄色といった色とりどりの草花等、豊かな自然に彩られた島、それが私達のふるさと多良間である。

集落の中を散策すると、格子状の道、集落を抱きかかえるかのように巡らされたポグ(抱護林)、神聖な御嶽や拝所等、沖縄の伝統的な集落景観を見ることができる。

また、島の英雄・土原豊見親ゆかりの史跡(ウプメーカ)や船舶の見張り台として造られた八重山遠見台や宮古遠見台、平敷屋朝敏ゆかりの里之子墓といった歴史・文化財も多く、歴史ロマンにあふれた島である。旧暦8月になると、島の老若男女が艶やかな色の衣装に身を包み、神に踊りを奉納する伝統芸能「八月踊り」が盛大に催されている。また、豊年の感謝と地域の繁栄の祈願を主とした「スツウプナカ」も村の重要な伝統行事である。多良間村は、まさに南島の自然と歴史・文化と島人の心情(しまんちゅのこころ)が、今なお息づく村といえ、いつまでも残したい村民の誇りである。

しかしながら、近年の社会は、少子高齢化社会の進行や感染症のパンデミック、大規模災害への不安、地球的規模での気候変動など多くの課題がひしめいている。

これらの課題を乗り越えるには、村民がお互いを尊重・共感し、互助・共助によって対応することが重要である。この精神は多良間村の地域のことばである「ふしゃぬふ文化」である。

また、村民の経済的生活は、必ずしも豊かではない部分もあるが、村民の幸福感は高いものがある。これらの意識は、多良間が持つ歴史と風土に裏打ちされた伝統的に受け継がれたものであり、世界に誇れるものでもある。

このような観点から、第5次総合計画の将来像を次のように定めるものとする。

持続可能で 幸せあふれる ふしゃぬふ文化の島 たらま

この将来像には、美しい自然や伝統文化、島人の心情が失われつつある沖縄において、古き良き沖縄の姿を大切にすることにより、来訪者にとっても魅力的で村民が誇れる平和で豊かな村づくりへの願いも込められている。

「ふしゃぬふ」とは

「共感や共助によって生活を和やかに過ごす」という多良間島のことば

2 基本構想の基本的方向性

第5次基本構想においても日本国憲法の「平和主義」「主権在民」「基本的人権の尊重」「地方自治」という精神を遵守するとともに、第5次の将来像である「持続可能で 幸せあふれる ふしやぬふ文化の島 たらま」に向かって進むために次の基本的方向を目指すものとする。

□持続可能な多良間村の構築を目指して

元気に学び遊ぶ子ども達、いつまでも元気で健康なお年寄り、働き者のお父さん、お母さんがいる生き活きとした地域づくりを目指すものとする。

そのためには、働く場と生活の安定を確保し、地域全体で健康づくりに取り組み、健康的な生活を送り、弱者は地域全体で支え、病気や寝たきり状態になっても安心して暮らせる社会の仕組みづくりを目指すものとする。また、地球全体の一員であることを自覚し、地球環境に配慮しつつ、本村の魅力の発信を目指すものとする。

□自然豊かで安全・安心な村を目指して

島の自然は、美しいものであると同時に厳しいものでもある。私達の親や祖父母、先祖は、お互いを思いやり、みんなで協力し、助け合いながら自然と共存してきた。多良間の美しい自然と温かい心は、そうした営みの中で培われたものだといえる。

他人を思いやり、自然を慈しむ姿と島の豊かな自然の見事な調和を醸し出す精神は、古来より本村住民の基本的特性である。今後も先人にならい、人と自然が調和した魅力ある島づくりを目指すものとする。

□幸せな未来を拓く人づくりを目指して

多良間村の地域振興のためには、若者の定着が重要とされる。このための生活の保障を目指す必要があるが、自分の郷土に愛着と誇りを持ち、地域の長所を自覚することも必要である。また、来島者や島外の人とのコミュニケーションをとることも地域振興に寄与できるものである。同時に、グローバルな視点で行動できることも必要である。

このような観点から、島に根ざした人づくりを推進し、郷土に貢献する人材だけでなく、世界に通用する人材の育成を目指すものとする。

□村民の幸福の追求を目指して

村の経済的発展を目指すことは幸福感を向上するためには必要事項であるが、村民が培ってきた地域コミュニティの構築を基本に、村民・行政・事業所が協働して、村民の幸福の追求を目指すものとする。

3 将来像を支える6つの基本目標

多良間村の将来像の実現に向けて、6つの基本目標と基本施策を設定する。また、それぞれの目標に該当するSDGsの項目を提示する。

(1) 基本目標1 豊かな生活の基礎となる産業づくり

【課題と方針】

多くの離島と同様に本村でも人口流出が大きな課題となっており、特に若年層の流出が著しく、島の地域振興策が進まない一因にもなっている。

若年層の定住促進には生活の基礎となる産業を振興し、雇用の促進を図らなければならない。島外においても雇用情勢が厳しくなっている今日では、今後、島内の雇用機会がさらに減少することも考えられ、新たな産業の創出が求められる。そのためには、本村の基幹産業である農業や漁業の振興はもとより、観光・レクリエーション産業の展開に加え、離島ならではの魅力の発信、多良間の魅力を活かした地場産業等、従来の発想を見直した「離島力」を発揮できる産業や商業製品の創出・開発が必要となる。

また、流通の活性化、製造・開発した製品の販路の開拓、観光客の誘致、島民生活の動脈となる交通体系の拡充も必要となってくる。

【基本施策】

- 1-1 農林畜産業の振興
- 1-2 漁業の維持・育成
- 1-3 商工業・独自産業の醸成
- 1-4 観光の振興
- 1-5 交通体系の拡充



夏植えサトウキビ

【該当するSDGs】



和牛の牧場



多良間村地域振興拠点施設



前泊港ターミナル



DHC8-Q400CC 型機

(2) 基本目標 2 島を支える生活の基盤づくり

【課題と方針】

本村は、清らかな自然に恵まれた美しい島であり、島民は古くからこの自然がもたらす恵みを楽しみつつ、自然への畏怖と敬愛を持って生きてきた。その一方で、離島であるが故に抱えざるを得ない不利な条件、いわゆる「しまちゃび」、「離島苦」と称される課題も近年、国や県、村民の努力により大幅な改善が見られるものの、未だに存在している。

このような中で、清らかな自然とともに生きることを将来の世代が受け継いでいくことを基本としながら、「離島」という条件を逆に活用し、離島の魅力を発信する、いわゆる「離島の力」を発揮する知恵を創出し、島の暮らしを豊かにしていくことが必要とされる。同時に、有効な土地利用の在り方を考えるとともに、これまで村民が培ってきた魅力ある集落景観の保全と新たな創出を検討する必要がある。

住居は、住民の生活の基本的場所となるものであり、住居の満足度が幸福度にもつながっていると考えられる。また、住民アンケートによっても、島外の方のUターン・Iターンを目指すにも「住居の確保」が課題とされている。

近年は、IT化が進み、各種の情報もスマートホンやインターネットでいち早く情報の取得が可能となった。このような情報通信の利・活用は多岐に及び、災害時の対応も含めて、島民・来島者ともに活用されており、Wi-Fiなどの情報通信基盤の拡充が急がれる。また、AI情報の活用も検討する必要がある。

地震・津波や気候変動による災害は、私たちの生活を脅かすものであり、消防・防災・救急医療の強化も急がれる。

【基本施策】

- 2-1 適正な土地利用・魅力ある集落景観の保全・創出
- 2-2 生活環境の整備
- 2-3 良好な住宅・住環境の創出
- 2-4 情報通信基盤の整備
- 2-5 消防・防災・救急医療体制の強化



フクギ並木

【該当する SDGs】



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



8 働きがいも
経済成長も



11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



13 気候変動に
具体的な対策を



南原団地

←多良間消防

(3) 基本目標 3 人・地球にやさしい持続可能な環境づくり

【課題と方針】

21世紀は「環境の世紀」といわれるように、地球環境問題という厳しい現実を打開するために、世界各地で懸命な努力が行われている。これは本村も無縁ではられない大きな問題である。島で健やかに生活するには、地球環境が健全であり、未来永劫、持続可能な環境でなければならない。村民も地球の一員として、地球全体をとらえたうえで、人も自然生態系の中で関わり合いながら、生活する視点が必要である。

また、地球環境保全のための一つである「エネルギー問題」も重要な課題となっている。エネルギーは生活するうえでの基盤になっているが、離島であるための利点・欠点が検討され、持続可能な開発のためにも対処しなければならない重要事項である。

本村は離島であるが故に、古来より自然との調和、環境の保全を充実させてきた。多くの村民や子どもたちが、多良間の魅力について「自然の豊かさ」を挙げている。今一度、先人たちが持っていたノウハウを再構築し、世界へ発信することを目指すものとする。

本村の環境に関する課題の一つに「海岸漂着ごみ」が挙げられる。村の海岸線は、人口構造物の少ない豊かな海岸であるが、漂着ごみが散在している。自然の保全のためにも対応が必要とされる。

本村の水道は、ほとんどが地下海水の上に淡水が乗った「淡水レンズ」の地下水に依存している。したがって、水質の保全・かん養は不可欠な事項である。これによって、安定的な水道水の供給が可能になるものである。これらは、村民が意識的に対応することが重要である。

【基本施策】

- 3-1 地球環境の保全・新エネルギーの促進
- 3-2 自然環境の保全
- 3-3 循環型社会の促進
- 3-4 水道の安全供給・地下水の保全
- 3-5 生活衛生の向上

【該当する SDGs】



可倒式風力発電



太陽光発電と風力発電



多良間村簡易水道浄水処理施設



クリーンセンター

(4) 基本目標 4 明るく安らぎに満ちた暮らしづくり

【課題と方針】

現在、4人に1人が65歳以上という超高齢社会にあって、本村は県内でも高齢化率の高い自治体である。一方、子どもの合計特殊出生率は全国的には高い自治体であるが、徐々に少子化が進行しつつある。

また、国民は、病気やけが、老後の不安のない、明るく安らぎに満ちた暮らしを享受する権利を有しているが、本村のような離島地域では、行政の力だけで他地域と同等の暮らしを保証することは困難である。

このような時代であるからこそ、先人たちの精神にならって、村民みんなで支えあう地域社会を構築しなければならない。

地域にある施設や人材を最大限に有効活用すると同時に、古来より培われてきた地域協働「ゆいまーる」の精神を発揮し、行政と地域が一体となって、住民の希望に沿ったきめ細やかな支えあいやサービスを行うことが重要である。

また、村民のお互いの人権や人格の多様性を理解・尊重しあい、感じ方や考え方、行動も許容することも肝要である。

【基本施策】

- 4-1 地域福祉・地域包括支援ケアシステムの構築
- 4-2 保健医療・健康づくりの拡充
- 4-3 高齢者支援・高齢者福祉の推進
- 4-4 子育て支援・子育て環境の充実
- 4-5 障がい者（児）の支援
- 4-6 多様な人格の理解や男女共同参画の促進
- 4-7 社会保障制度の適正な運用



高齢者福祉センター

【該当する SDGs】



多良間村立保育所



多良間シュンカニの歌碑



グラウンドゴルフ風景

(5) 基本目標 5 島の未来を支える人づくり

【課題と方針】

本村の子ども達は、美しい海や自然、八月踊り、スツウプナカ等の伝統行事を通して豊かな感性を育み、素朴で純粋に成長している。しかし、中学を卒業したら大方は高校進学のために島を離れなければならない宿命を背負っている。このような社会状況下にあるにも関わらず、本村は沖縄県のみならず、本土や海外で活躍する優秀な人材を輩出してきた。

本村の最大の資源は人であり、今後の地域活性化のためには様々な分野において多様な人材を育成すると同時に、島外で活躍する村出身者あるいは多良間を愛する島外出身者と連携し、村の内と外から地域振興を図る必要がある。そのために、郷土のことをしっかりと見据え、多良間の主体性、方向性を認識し、個々の人間力を高めていけるような地域社会の実現を目指していく。

本村には高校がなく、中学を卒業と同時に島外の高校・大学への進学しなければならない。卒業後、島外で活躍することも有効であるが、将来、本村に戻り、村の発展に寄与する人材の確保も重要である。そのためには、生活基盤の確保と魅力ある多良間村を目指していく。

【基本施策】

- 5-1 園児・児童・生徒の教育の向上
- 5-2 社会教育・生涯学習・スポーツ等の振興
- 5-3 地域伝統文化の継承
- 5-4 地域交流による人材育成等の促進



多良間小学校・幼稚園

【該当する SDGs】



多良間中学校



八月踊り



コミュニティー施設

(6) 基本目標 6 健全な村経営の仕組みづくり

【課題と方針】

21世紀は、地方分権の時代といわれるように、行政の仕組みも大きな変革期を迎えており、「自らの問題は自らで解決する」という地方自治体の能力が求められている。国の財政においても累積赤字が膨らみ、財政再建・構造改革の流れの中で、本村も厳しい財政状況が続くものと予想される。

このような状況下で、行政の円滑な運営を行うには、村民の積極的な協力が不可欠であり、村民の支えあい精神を尊重し、自主的に行政に参加できるような仕組みづくりを構築する必要がある。そのためには、村民へ適正に情報を開示し、理解と参画を促して「地域社会活動の強化」を図ると同時に、社会施設の整備や組織の強化・支援に務めるものとする。

【基本施策】

- 6-1 広報の充実・行政への住民参画の推進
- 6-2 行政運営の適正化
- 6-3 施設運営・財政運営の効率化



多良間村役場

【該当する SDGs】



多良間村特産品開発センター



多良間村広報誌



たramaゆがぶうランド

◆基本構想体系図◆

将来像

持続可能で 幸せあふれる ふしゃめふ文化の島
たらま

基本的方向性

持続可能な多良間村の
構築を目指して

自然豊かで安全・安心な村
を目指して

幸せな未来を拓く
人づくりを目指して

村民の幸福の
追求を目指して

6つの基本目標

- 1 豊かな生活の基礎となる産業づくり
- 2 島を支える生活の基盤づくり
- 3 人・地球にやさしい持続可能な環境づくり
- 4 明るく安らぎに満ちた暮らしづくり
- 5 島の未来を支える人づくり
- 6 健全な村経営の仕組みづくり

第5次多良間村総合計画
基本構想

令和3年11月

沖縄県宮古郡多良間村字仲筋 99-2
多良間村 総務財政課

TEL:0980-79-2011

FAX:0980-79-2120

